

平成31年度  
事業報告書

社会福祉法人 緑友会

## 目 次

はじめに	3
法人本部	3-17
役員会（理事会・評議員会）	3-4
特記事項 要件	4-7
職員人事 入退職	7
職員配置状況	8
職員研修（1 外部研修）	9-12
職員研修（2 法人研修）	12
職員研修（3 特養内部研修）	12
職員研修（4 ヘルパー内部研修）	13
職員研修（5 研修委員会 総評報告）	14-16
防災訓練	17
小川ホーム	18-33
1. 入所者の状況	19-22
2. 処遇の状況	22-27
3. 実習生・ボランティアの受け入れと地域福祉	27-28
4. 各係	28-30
5. 栄養・給食関係	30-33
短期入所生活介護	34-35
小川ホームデイサービスセンター	36-39
1. 月別実績	37
2. 要介護度・年齢別利用者数	37-38
3. 移動方法別利用者数	38
4. 地域別利用者数	38-39
5. 行事	39
小川ホームホームヘルプサービス	40-42
小川ホーム介護計画センター	43-45
地域包括支援センター小川ホーム	46-45
1. 月別実績	51
2. 要介護度分類	51
3. 相談実績	52-55

はじめに

平成31年4月から令和元年に移行、そして令和2年に3月に至る2019年度の法人事業は大過なく推移しておりました。年度末に至って新型コロナウイルス感染症が吹き荒れ、今だに収束しない状況ですが、いつも以上に健康に注意して業務に臨んでいます。

高齢者施設での感染症は2019年3月厚労省発行の「高齢者介護施設における感染症対策マニュアル改訂版」に挙げているように、インフルエンザ、ノロウイルス感染症・感染性胃腸炎、疥癬、腸管出血性大腸炎（O157 感染症）、結核、レジオネラ症、肺炎球菌等による肺炎、誤嚥性肺炎（口腔内細菌等による）、薬剤耐性菌感染症（MRSA、緑膿菌等）等などがあり、基本的な予防策として標準予防策の確認実行、具体的には手洗い、手袋着用、マスク・ゴーグル使用、エプロン・ガウン着用、ケアに使用した器具の洗浄消毒、リネンの消毒、環境対策が勧められています。日常務では特に手洗い、マスク使用を実行しており、また梅雨時の食中毒にも給食関係のスタッフを中心に十分配慮しています。

今回の新型コロナウイルス感染症発生で新たな感染症が加わるが、全人口の半数以上が免疫を獲得するか、ないしは有効なワクチンが開発されるまでは落ち着かないでしょう。インフルエンザに対しては毎年予防接種を受けて、凌いでいくといった状況ですが、新型コロナウイルス感染症もこのインフルエンザ対策のようになるまでにはかなりの年月が必要でしょう。利用する高齢者の方々の生命を守り、健康に留意しながら、潤いのある中身の濃い日々の生活を送っていただけるようにソフト、ハード面での点検改善を図ると同時にスタッフの健康と働く環境に配慮して行きます。

法人本部

○役員会

法人及び各事業運営についての諸議案が審議、決議された。

回数	開催日	出席状況	主な議題（概要）
94	理事会 令和元年 5月31日 (金曜日) 17時15分～	出席 理事6名 監事2名	第1号議案 平成30年度 事業報告書（案） 第2号議案 平成30年度 計算書類及び財産目録（案） 第3号議案 本決算における積立金、積立資産、 賞与引当金に関する案 ①施設・設備整備等積立 ②空調設備改修積立 ③職員処遇積立（介護職員） ④職員処遇積立（非介護職員） ⑤賞与引当金 第4号議案 福祉充実残額の確認 第5号議案 平成30年度事業に関する監事監査報告 及び 純資産証明額・資産登記の確認案 第6号議案 就業規則改定案（有給休暇等） 第7号議案 評議員会開催についての決議（案） 第8号議案 評議員会に提案する次任期理事会役員候補者の確認
16	評議員会 令和元年 6月18日 (火曜日) 15時00分～	出席 評議員7名 理事2名 監事2名	第1号議案 評議員会議長選出 第2号議案 評議員会議事録署名人選出 第3号議案 平成30年度 事業報告書（案） 第4号議案 平成30年度 計算書類及び財産目録（案） 第5号議案 本決算における積立金、積立資産、 賞与引当金に関する案 ①施設・設備整備等積立 ②空調設備改修積立 ③職員処遇積立（介護職員） ④職員処遇積立（非介護職員） ⑤賞与引当金 第6号議案 福祉充実残額の確認（案） 第7号議案 平成30年度事業に関する監事監査報告 及び 純資産証明額・資産登記の確認案 第8号議案 法人役員（理事及び監事）の選任の件

95	理事会 令和元年 6月18日 (火曜日) 16時30分～	出席 理事6名 監事2名	第1号議案 理事長、業務執行理事選任
96	理事会 令和2年 1月17日 (金曜日) 17時15分～	出席 理事6名 監事2名	第1号議案 補助金交付決定および高額な出納について(承認案) 第2号議案 平成31年度第1回補正予算(案) 第3号議案 諸規則、諸規定改定(案) ①入所契約書 改定 ②パソコン管理規程(パソコン借用書及び誓約書を含む) 制定  ③就業規則 改定 ④経理規程 改定 ⑤定款施行細則 第29条に定める支出に係る 決裁基準表 改定 第4号議案 令和2年度 業務委託 指名競争入札実施案
97	理事会 令和2年 3月27日 (金曜日) 17時15分～	出席 理事6名 監事2名	第1号議案 高額な出納について(承認案) 第2号議案 令和2年度 事業計画書(案) 第3号議案 令和2年度 収支予算書(案) 第4号議案 令和2年度 業務委託指名競争入札の 実施報告と契約(案) 第5号議案 令和2年度 設備機器備品購入計画(案) 第6号議案 令和2年度 積立金取り崩しに 関する承認案 第7号議案 役員等の賠償責任保険の加入に関する案

#### ○評議委員

下記の評議員7名各氏は変化なく引き続きお務めいただいている。令和元年6月18日に評議員会が開催され、平成30年度の決算に関する議案の決議をして頂いている。

任期は平成29年4月1日から令和2年度決算に関する、令和3年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時までである。

評議員 赤木 真 出竿章雄 栗田正夫 澤田尚敏 田中信明 土川洋子  
檜山則明

#### ○理事・監事

下記の役員7名各氏は変化なく引き続きお務めいただいている。

任期は令和元年6月18日から令和2年度事業に関する、令和3年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時までである。

理事長 菅野徹夫  
業務執行理事 小林美穂  
理事 市東和子 関谷栄子 高木好男 増田英男  
監事 基太村壽三郎 森杉美保

#### ○介護保険改正、介護予防・日常生活支援総合事業、行政庁移管

小平市では平成28年3月1日から総合事業がスタートしており、当法人でも通所介護及び訪問介護において「国基準型」「市独自基準型」サービスに替えて提供

を行っている。

「小平基準型」サービスの総合事業は「国基準型」と並行して展開する形となっているが、行政主導の全面移行は平成31年度も行われなかった。デイサービスにおいては、利用者が総合事業サービスに自ら移行を希望するだけの実益性や魅力に乏しいため、昨年度同様「小平基準型」の利用増員にはつなげられなかった。また、職員人員配置は既に行っているため、安定した収支バランスを維持するには至っていない。

同様にホームヘルプサービスでは、一般の介護援助に加え、市の研修を修了したヘルパーが総合事業のヘルプを担う形で若干実績を伸ばしたが、介護ヘルプと同様に働き手の確保が難しく、また職員の高齢化も進み、地域ニーズに応えることが難しく、市内全体の課題になっている。

#### ○福祉サービスの第三者評価の受審

令和元年10月15日から令和2年2月20日にかけて、入所者への聴き取り調査、職員及び管理者への分析シート調査等を実施した。調査機関は一般財団法人日本薬事法務学会と契約し、介護サービス情報同様に東京都福祉サービス評価推進機構のホームページに掲載され公表されている。

#### ○協力医療機関と嘱託医師

平成31年度は、協力医療機関として以下のとおり来訪により診療等を実施した。なお産業医の山田克浩医師がご退任され、12月1日より後任に下山克也医師が引き受けてくださっている。

南台病院 内科 下山克也医師	小川クリニック 内科 小川哲史医師
あきやま子どもクリニック 内科 後藤雄一医師	
小平仲町クリニック 精神科 伊藤敬雄医師	
島田療育センターはちおうじ 整形外科 菅野徹夫医師	
パール歯科 歯科 輪番担当医	南台病院 産業医 山田克浩医師（退任） 下山克也医師（着任）

#### ○労働の安全と衛生委員会

各部門の職員から業務に対する要望や不安の声を聴くために、委員を増員して検討を行っている。ストレスチェック・働き方改革と休暇取得・健康診断計画と結果・熱中症等対策・就業規則改定・分煙化・職場空調環境・特定処遇改善・駐輪所・防火対策・緊急発電対策・感染症対策・職員介護力負担軽減・PC利用と情報管理・訪問感染予防・ハラスメント対策・新型コロナウイルス対策・介護職員の欠員補充策について検討している。

職員検診について、職員日程都合にて巡回検診未受診の職員には、立川中央病院健康クリニックでの健康診断、南台病院での腰痛問診依頼をすることになったが、新型コロナ感染拡大予防の理由で3月以降中断しているため、次年度に補完を行う予定としている。

#### ○肺炎球菌性肺炎、インフルエンザ、新型コロナウイルス等の感染対策

開設後初めて、肺炎球菌性肺炎が利用者数名に断続的に発症した。今後の対応として入所時にワクチン接種の有無を確認し、接種の定期的要請を利用者家族に行う

こととした。ボランティアの中には高齢の方も居られるため、これを説明し、一時活動を中止していただいた。

インフルエンザについては流行に備え、特養利用者及び職員全員を対象に南台病院に委託し、11月21日、28日、12月5日の3日間に分け、下山医師の来診日に予防接種を行い、数例の発症を除いておおむね予防できたと捉えている。

新型コロナウイルス感染が世界的に急増する中、法人では2月25日より、各セクション代表を集め、感染症対策委員会を拡大して組織し、施設長を座長として毎週火曜日に対策会議の開催をしている。入館の制限と消毒、検温等の体調管理、職員間接触の抑制、定時換気、三蜜の回避、衛生の徹底、感染拡大に備えた衛生・介護用品の備蓄などを課題として、都度更新される厚労省指針や社会情勢を掌握し、継続した対策を行っている。

#### ○介護人材不足と外国人留学生、派遣職員の利用

介護人材は国内的に依然として不足しており、特に界限で介護施設の造設が増えたことで、人材の引き合いになっている。折込広告・フリーペーパー・インターネット求人媒体を使い、口伝えも合わせて職員募集をしているが、職員の補充には平均3ヶ月を超える期間を要してしまうのが実情である。

その結果介護現状を優先的に考え、派遣職員を複数名採用しているが、スキルの高い適材と巡り合うことは難しい現状がある。今後更に職員の口伝えも含め、欠員者の補充に努めて参りたい。

また、NPO法人ひとりとみんなと連携し平成30年度から来日したベトナム人留学生一名は、介護専門学校に就学しながら小川ホームで非常勤職員として勤勉に業務を果たしている。介護福祉士資格取得の後は、当面常勤職員として小川ホームへの就労が予定されている。

#### ○計画的な機器材の更新

経年劣化のある建物設備については、平成30年度に承認された5年間の計画に従いダイキンエアコン、川重エアコン共用部分ファンコイル、厨房ティルティングパン、3階汚物除去機、1階ビデオプロジェクター、2・3階介助用リフト浴計2台、について更新を行った。

#### ○IT委員会

介護保険導入以降、保険請求・経過記録・人事・金融等の業務に合わせ、パソコンに依存する業務増大に合わせ徐々に台数を増やしていたが、専らパソコンと周辺機器、情報管理に対する規定がなかったことから、パソコン管理規程を策定した。また、IT委員会を開催し、パソコン等の管理を行い、パソコンを利用する職員から書面を徴し、情報管理についての誓約を実施した。Microsoft サポート終了に伴い、全機に対しWindows10へのアップグレードを行った。

#### ○人事評価制度の更新

一昨年に改定した人事制度を用い、職務の等級に合わせた目標チャレンジ・研修シートを用いて人事考課を継続実施した。特に中途採用職員の入職時の評価は、それまでの業務経験やスキルに十分配慮して行うことで、やりがいを引き出し永く勤務したいと思える施設づくりに取り組んでいる。また一昨年の改定では、全職員の

目標の達成評価を適切に評価できる仕組みとしているが、結果的に総合考課結果に偏差が出にくい傾向があり、評価者の基準差の修正と、定期的な研修に取り組んでまいりたい。

#### ○地域連携・ボランティア・実習生委員の配置

令和元年10月24日に例年通りボランティア感謝会をブリジストン会館で開催し、アトラクションも行い、参加した約50名のボランティアさんに感謝を表し意見交流を行った。今後も継続して地域と連携し、より多くのボランティアさんからのお手助けを受け、一方で新たな介護人材を確保できるよう実習生の受け入れ態勢を充実させる必要がある。

これに向け平成31年4月より「地域連携・ボランティア・実習生委員」として、小川ホーム職員からリーダー・副リーダーを選任し、行政庁がイメージする地域連携と、高齢者の居場所づくりの固定的な展開を目指し活動を開始している。

その一環として地域の団体、自治会、病院、大学、企業、行政に向けて発信し、11月24日に「おがワンフェスティバル」を開催する中で、地域ネットワークづくりを始めることができた。準備したブースの運営は地域の方各々が主体的に行う中で開催し、当日は概ね400名の一般来場者があったことから、今後も継続し、地域のきずなを強めたいと考えている。

#### 法人職員人事（異動・昇格）

氏名	日付	任	免
石原裕介	H31. 4. 1	生活健康課 生活係 主任	生活健康課 生活係
村山大輔	H31. 4. 1	生活健康課 生活係 副主任	生活健康課 生活係
野澤喜美子	H31. 4. 1	生活健康課 生活係 異動	ホームヘルプサービス 主任
松井清美	H31. 4. 1	ホームヘルプサービス 主任 サービス提供責任者	ホームヘルプサービス 職員 サービス提供責任者
住友満美子	H31. 4. 1	庶務課 主任 管理栄養士	庶務課 副主任 管理栄養士
長嶋弘樹	H31. 4. 1	庶務課 主任	庶務課 職員

#### 職員入退職（常勤職員）

職種	配置	入職者	日付	職種	配置	退職者	日付
介護職員	特養	市川雅也	H31. 4. 1	介護職員	特養	岡田祐子	R1. 4. 9
介護職員	特養	河原崎真帆	R1. 11. 17	介護職員	特養	塩崎佳子 非常勤契約	R1. 7. 31 R1. 8. 1
介護職員	特養	山谷小矢香	R1. 11. 18	介護職員	特養	嶋田 寛	R1. 9. 30
以下余白				介護職員	訪問	清川多恵子	R1. 10. 31
				介護職員	特養	原田信治	R1. 11. 30
				介護職員	特養	南山妙子	R1. 12. 31
				介護職員	特養	河原崎真帆	R2. 1. 17
				介護職員	特養	山谷小矢香	R2. 1. 18
				介護職員	特養	松本弘吉	R2. 3. 9
				介護職員	特養	菊池孝明	R2. 3. 31

職員配置状況

令和2年3月31日現在

職 種	介護老人福祉施設 (短期入所を含む)		通所介護		訪問介護	
	基準	定員	基準	定員	基準	定員
施設長	1	1 [内兼務1]				
事務員		2 [内兼務1]				
看護職員	3	3(2) [内兼務1]	1(1)	(3) [内兼務2]		
相談員	1	1	1(1)	4(2) [内兼務 4(2)]		
介護職員	24	23 (16)	6	4(13) [内兼務 3(2)]		
ヘルパー					9	4(19)
介護支援専門員	1	[兼務4]				
管理栄養士	1	1				
医師	必要数	(4)				
精神科医師	(1)	(1)				
歯科医師(訪問)	(1)	(1)				
機能訓練指導員	1	1 [内兼務1] (1)	1	1(2) [内兼務1 (2)]		
ライフワーカー		(9) [内兼務 (1)]				
業務員		(4) [内兼務 (1)]				
警務員		(7)				
専従運転士				(3)		
計	32 (3)	32 (45) [兼務8 (2)]	9(2)	9 (23) [内兼務 10(6)]	9	4(19)

職 種	居宅介護支援		地域包括支援	
	基準	定員	基準	定員
事務員			(1)	1
看護職員			1(1)	1(1)
相談員			2	2
介護職員				
ヘルパー				
介護支援専門員	6	5(3)	5(3)	5(3) [内兼務1]
管理栄養士				
医師				
精神科医師				
機能訓練指導員				
業務員				
計	6	5(3)	8(5)	9(4) [内兼務1]

※( )は非常勤職員

※基準は介護保険法に照らし、同時に当サービスの利用者数の現況を満たすだけの必要人員を表現している。

※計は単純に表を合計しているため、実人の計とは一致しない場合がある。



職員研修

(1) 外部研修

研修内容	研修主催者	研修者	研修日 (1日目)	その他 (2日目以降)
地域から応援される施設になるための施設ボランティアコーディネーター研修	東京ボランティア・市民活動センター	石原祐介	H31. 4. 24	
認知症家族介護講座	認知症地域支援推進員・認知症ケア向上事業	松田弥生	R1. 5. 13	
東京都介護予防推進会議	東京都福祉保健局高齢者対策部在宅支援課	横山真希	R1. 5. 27	
介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修	東京都健康長寿医療センター	大野友紀・横山真希	R1. 6. 3	
小平市ケアプラン研修「リ・アセスメント活用」	小平市地域包括支援センター中央センター	塩野谷誠	R1. 6. 4	R1. 6. 18 全3日間
共創力アップ・プログラム公開講座―地域包括ケアにおける地域づくりの基盤を整えるには?―	東京ホームタウン・プロジェクト	大野友紀・中野香美	R1. 6. 5	
精神保健福祉概論	東京都多摩総合精神保健福祉センター	横山真希	R1. 6. 6	
初任者研修	東京都社会福祉協議会	市川雅也	R1. 6. 10	R1. 6. 11
生活支援コーディネーター初任者研修	東京都福祉保健局	大野友紀	R1. 6. 16	R1. 6. 17
栄養ケア寄り添い型リユニオン事業指導者研修	厚生労働者・東京都栄養士会	住友満美子	R1. 6. 15	
東京都認知症介護基礎研修	東京都社会福祉協議会	板井雅俊	R1. 6. 25	
白梅こども学講座「子どもの貧困と子ども食堂」	白梅学園大学	野島邦義・中野香美	R1. 6. 29	
地域づくりのための基盤整備セミナー	東京ホームタウン・プロジェクト	大野友紀・中野香美	R1. 7. 3	
東京都認知症介護研修	東京都福祉保健局高齢社会対策部	板井雅俊	R1. 7. 4	R1. 7. 5 全6日間
小平市ケアプラン研修心に寄り添う面接技術～親身なニーズアセスメントとは～	小平市地域包括支援センター中央センター	平間亜矢子・大野友紀・塩野谷誠・永畑加代子・松田弥生・小泉由美・上田典子・大橋慧媛・古川千鶴子	R1. 7. 5	
地域ケア包括支援センター初任者研修	東京都福祉保健局高齢社会対策部	平間亜矢子	R1. 7. 10	R1. 7. 11
東京都介護支援専門員研修	公益財団法人総合健康推進財団	大橋慧媛	R1. 7. 14	R1. 8. 22 全5日間
「その人らしさって?」～広い視点を見につける～	小平ケアマネ連絡会	佐藤実・古川千鶴子・上田典子・永畑加代子・平間亜矢子・池田まゆ美	R1. 7. 18	
東京都介護支援専門員研修	公益財団法人総合健康推進財団	出井かおり	R1. 7. 18	R1. 8. 4 全5日間

今求められる人間力と組織を強くする方法	東大和青年会議所	野島邦義	R1. 7. 23	
ショートステイのリスクマネジメント	東京都社会福祉協議会	高橋利枝	R1. 8. 20	
看取りケア研修実践編	お茶の水ケアサービス学院	武藤光仁	R1. 9. 5	
社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局	野島邦義	R1. 9. 2	
小平市ケアプラン研修基礎から学ぶスーパービジョン	小平市地域包括支援センター中央センター	佐藤実・上田典子・永畑加代子	R1. 9. 4	R1. 10. 1
スーパービジョン研修 社会福祉の専門家として 職員の成長を考える	??	野島邦義	R1. 9. 6	R1. 10. 23 全4日間
自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議実践者養成研修	東京都福祉保健財団	横山真希	R1. 9. 7	R1. 9. 27
福祉送迎運転者講習会	一般社団法人日本福祉車輛協会	田代武二・山岸裕美子	R1. 9. 11	
小平ケアマネ連絡会「その人らしさを表現できるケアプラン作り」	小平ケアマネ連絡会	平間重矢子・永畑加代子 佐藤実・池田まゆ美・大橋慧媛・古川千鶴子・宮永桃子	R1. 9. 19	
令和元年度成年後見基礎講座「法定後見制度」	小平市社会福祉評議会	小泉由美・木上利恵子	R1. 9. 20	
遺言書の基礎知識	小平市社会福祉評議会	木上利恵子	R1. 9. 26	
東京都主任介護支援専門員更新研修	東京都介護支援専門員研究協議会	佐藤実・永畑加代子	R1. 9. 23	R1. 9. 30 全8日間
おさえておきたい認知症の基礎	国立精神・神経医療研究センター	加藤桂子・山岸栄子	R1. 10. 7	
ヒアリハット事例を交えたリスク管理の重要性と福祉用具を使った安全で質の高いケア	東京都福祉保健財団	武藤光仁	R1. 10. 10	
在宅医療におけるケア・マネジメント	東京訪問看護ステーション協会	木上利恵子	R1. 10. 19	
地域の薬局と連携しケアマネジメントに活かそう	西圏域・中央西圏域ケアマネ交流会	加藤桂子	R1. 10. 25	
自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議実践者養成研修	東京都福祉保健財団	住友満美子	R1. 10. 30	R1. 11. 23
社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局	村山大輔	R1. 11. 11	
社会福祉法人・事業所が地域を知り、地域とつながるためのセミナー	東京都地域公益活動推進協議会	野島邦義	R1. 11. 7	
東社協 北北ブロック介護研修会・生活相談員研修会 合同研修会	東京都社会福祉協議会	高橋利枝	R1. 11. 8	
レクリエーションアキティティ研修	三幸福祉カレッジ	石原祐介	R1. 11. 11	
東京都入退院時連携強化研修	東京都福祉保健局	横山真希	R1. 11. 12	R1. 11. 25

小平市ケアプラン研修 「リ・アセスメントシート活用」	小平市地域包括支援センター中央センター	出井かおり	R1. 11. 14	R1. 11. 26 全3日間
働き方改革の推進に向けた講習会	立川労働基準協会支部	野島邦義	R1. 11. 25	
人生の最終段階におけるリハビリとは？実践編	小平市地域包括支援センター中央センター	池高真一	R1. 11. 29	
精神疾患の正しい理解と関わり方	小平市地域包括支援センター中央センター	加藤桂子・出井かおり・大橋慧媛	R1. 11. 29	
中堅職員重点テーマ強化研修	東京都福祉人材センター研究室	村山大輔	R1. 12. 4	R1. 12. 5
小平在宅医療介護連携推進協議会 総会	小平在宅医療介護連携推進協議会	佐藤実	R1. 12. 7	
東京都介護予防推進会議	東京都福祉保健局	横山真希	R1. 12. 10	
地域包括支援センターで働く看護職のための交流会	東京都福祉保健局	横山真希	R1. 12. 14	
精神疾患の正しい理解と関わり方	小平市地域包括支援センター中央センター	古川千鶴子	R1. 12. 14	
東京都介護支援専門員研修	公益財団法人総合健康推進財団	加藤桂子	R2. 1. 10	R2. 2. 24 全5日間
ソーシャルワーク研修会in飯田橋～みんなが笑顔で前向きになれる研修～	東京都社会福祉協議会	野島邦義	R2. 1. 15	
東京都地域包括支援センター職員研修	東京都福祉保健財団	平間亜矢子	R2. 1. 16	R2. 1. 17
小平市ケアプラン指導研修 全体研修 「リハビリの視点から考えるケアマネジメント」	小平市ケアプラン研修	佐藤実・大橋慧媛・古川千鶴子・山岸栄子・池田まゆ美・小泉由美・永畑加代子・木上利恵子	R2. 1. 21	
ケアの質を上げるロボット活用研修会	東京都社会福祉協議会	野島邦義	R2. 1. 21	
東京都介護支援専門員研修	公益財団法人総合健康推進財団	野島邦義	R2. 1. 23	R2. 1. 26 全6日間
栄養管理講習会 食事基準（2020年度版）の概要と活用	多摩小平保健所	住友満美子	R2. 1. 29	
福祉事業所のための研修体系確立・推進研修	東京都社会福祉協議会	池高真一	R2. 1. 29	R2. 1. 30
事例から学ぶ生活相談員の事故対応～事故対応による家族トラブルを防止するための研修～	東京都社会福祉協議会	野島邦義	R2. 2. 5	
人生100年時代を生きる知恵	小平市市民活動支援センターあすぴあ	大野友紀・中野香美	R2. 2. 8	
キャリアパス対応生涯研修過程「管理職員研修」	東京都社会福祉協議会	武藤光仁	R2. 2. 6	R2. 2. 7
より良い介護の未来を考える会	鈴木慶安らぎクリニック 予防通所介護あんねい	永畑加代子・小泉由美・木上利恵子	R2. 2. 15	

多職種提携研修会「ACP」を通して本人の想いを支える～それぞれの役割と連携を考える～	小平市在宅療養介護連携推進協議会	大橋慧媛	R. 2. 15	
介護職員の為のここは押さえておきたい接遇マナー基礎研修～接遇マナーの根拠を知りホスピタリティスキルアップ～	お茶の水ケアサービス学院	斎藤美佐	R2. 2. 18	
東京都認知症介護基礎研修（第17～20回）	東京都福祉保健局	相原和典	R2. 2. 20	
ケアマネ交流会 障害サービスを学ぼう	小平市地域包括支援センター 5包括合同	大橋慧媛・加藤桂子・古川千鶴子・大野友紀・永畑加代子・木上利恵子	R2. 2. 28	

## (2) 法人研修

研修内容	講師	受講者数	研修日
認知症ケア 虐待について考える ～もう一人の自分に出会わない方法と出会った時の対応～	鷹部屋宏平先生	63名	H31. 8. 9 H31. 9. 13
幹部職員向け研修（主任格以上）	渡辺義昭先生	18名	R1. 10. 4
中堅職員向け研修	渡辺義昭先生	35名	R2. 2. 13

## (3) 特養内部研修

研修内容	講師	受講者数	研修日
利用者急変時の対応（緊急対応）	野島邦義	23名	H31. 4. 15～全6日間
食中毒（感染症研修：1回目）	杉本百合子	25名	R1. 6. 11～全3日間
明日から活かせる介護技術 ～実践！スキンケアから考える清潔ケア～ （褥瘡予防研修）	山田芽美	12名	R1. 6. 14・20・26
経管栄養について（喀痰吸引・経管栄養研修）	矢村恵美	28名	R1. 6. 29～全6日間
慣れからくる事故を無くす （介護事故予防：1回目）	武藤光仁	32名	R1. 8. 20～全8日間
身体拘束等の適正化のための研修 （身体拘束廃止：1回目）	鎌田英子	43名	R1. 10. 18・20
自分が認知症だったら何をしてもらいたい！？ ～介護士の専門性を考えよう！～（認知症）	野島邦義	27名	R1. 10. 29～全7日間
ノロウイルス・インフルエンザ予防 ～手洗いの仕方～（感染症研修：2回目）	杉本百合子	19名	R1. 11. 28～全3日間
トロミ剤の正しい手技と性質（生活支援係）	相原和典	11名	R1. 11. 29
事故予防研修（介護事故予防：2回目）	武藤光仁	36名	R2. 2. 15～全5日間
アンガーマネジメント技術を身に付けよう ～不適切ケアとは～（身体拘束廃止研修：2回目）	鎌田英子	52名	R2. 3. 19～全3日間

(4) ヘルパー内部研修

※サービス提供責任者が講師を務め、以下の研修会を開催しています。

※法人研修・外部研修は前記(1)(2)の表に記載しています。

※研修未受講者に対するフォローアップ研修はOJTで個別に行っている。

年	令和元年				令和2年
月	7	8	9	10	2
日	30	9	13	4	13
研修テーマ	て 熱中症・予防対処法について	考 認知症ケア・虐待について	考 認知症ケア・虐待について	層のサービスマインド・リーダーマインドを高める	中堅職員研修 福祉現場におけるサービスマインド研修
講師： サービス提供責任者	松井 清美	鷹部屋宏平	鷹部屋宏平	渡邊 義昭	渡邊 義昭
柏木あけみ	○				
高原好子	○	○			
広田裕子	○	○			
松野智子	○	○			
斉藤与志子	○	○			
上條悦子	○		○		
豊嶋尚美	○		○		
増田いづみ	○		○		
坂田しのぶ	○	○			○
鈴木今日子	○		○		○
廣田公雄					
森本由紀子	○		○		
加藤満子	○	○			
加藤ななえ 6月退職					
王 影欣	○		○		
吉田つや子	○	○			
福岡邦子	○	○			
丸山安三		○			
小川真理子 10月入職					
夏山照美 (生活サポーター)					
岩渕けい子 (生活サポーター)					
雨宮仁 (生活サポーター)					
松井清美	講師	○		○	
羽根ルミ子	○	○			
清川多恵子 10月退職			○		

## (5) 研修委員会 総評報告

平成31年度

### 研修委員会 総評報告

#### 《総括》

研修課題の中で平成31年度は、優先的に取り組むべき研修課題の中で、3つの課題について取り組む事ができた。

年度の後半に職員の健康増進のための研修を企画していたが、インフルエンザの蔓延や新型コロナウイルス感染予防対策の観点から実施が出来ず、延期とした。

○課題の1つ目として、「認知症ケア現場での虐待について考える～もう一人の自分に出逢わないために～」

認知症ケアについては、繰り返し、継続的に学ばなければならない学習項目である。どの研修にも共通する事であるが、研修を受けた時は学びの意欲や感化されたことで、課題に取り組むようになるが、日々の業務に終わっていると、どうしても忘れてしまう事も多くなる。福祉現場は感情労働であり、他の仕事よりストレスをためやすい職場にある。もう一人の自分に合わないようにするためには、負の感情をどのようにコントロールできるか、その考え方や対応方法を学ぶ機会となった。感情のコントロールとして、「アンガーマネジメント」という考え方を取り入れる、もう一人の自分に出逢いそうになったら、誰かに助けを求める事、相談していく事の大切さを学んだ。

現場の職員には、リーダーがいち早く介入し、イライラしていないか、疲れていないかの危険信号をキャッチ出来るようにしていく事が、認知症ケアの現場での虐待防止には大変重要である事を学べた事は大きい。

○課題の2つ目と3つ目は「小川ホーム組織強化の為の職員階層別研修会：幹部職員対象」・「小川ホーム組織強化の為の職員階層別研修会：中堅職員対象」についてである。

これは、法人の事業目標の中でも人材確保と組織強化は急務な課題としてあがっていた。

利用者が「その人らしい」生活ができるように質の高い介護サービスを提供することに対応する人材を確保及び育成していかなければならない事である。又、安定的な経営基盤の確保をするために、組織の体制強化が必要になっている。管理職の役割（心構え）を明確にして、管理職の指導力や体制強化を図る必要があった。一方で、中堅職員においても、中堅職員の目指すところを明確にして、先生にはこちら側の意図を説明させてもらい講義に反映させてもらった。現場の先輩として、利用者にとって何が、1番良いのか、どのようにしたら良いかを考えて欲しいこと、自分の立ち位置を捉えなおし、現場（部署）全体のチームワーク作りに貢献し職員の中核としての働きを再認識してもらう事を念頭に実施してもらった。又介護職の魅力の向上を図りつつ、アセスメント力や気づき力を身に付けて、利用者の「その人らしさ」が生かせる質の高いサービス提供が出来るようにしていく狙いがあった。

離職防止、定着促進、生産性の向上を図り、魅力ある職場作りが必要である事は、継続的にしていかなければならない。その為、職務遂行に必要な知識や能力を身に付けるために研修を階層別に区切って実施した。

ただ、この課題は大変難しく、退職する職員も重なり、各部署での対応と人材獲得に追われた年となってしまった。職員の入れ替わりがされる中で、この課題も継続的かつ恒久的に

学んでいく必要がある。

各研修の詳細報告については、以下の通りとする。今後も全体研修においては、法人の各部署での共通課題に対して研修を令和2年度も行っていきたい。

### 【外部講師を招いたOFF—JT研修】

#### 第一回 法人研修

テーマ：認知症ケア現場での虐待を考える ～もう一人の自分に遭わないために～

日 程：令和元年8月9日（金）・9月13日（金）

時 間：18時～20時

講 師：シャローム東久留米 鷹部屋 宏平 先生

参加者：計63名

<実施報告>

近年、社会でも問題視されている認知症高齢者への虐待。介護は感情労働であるため、自身の感情を自己制御することが求められるが、一言に感情の自己制御といっても術がなければ制御することはできない。そのため本研修では、虐待という観点から誰しもが陥る問題として、その対応方法を知ることを目的に実施した。

人はそれぞれに生まれてから今までの歴史や人生経験があり、認知症によりできないことが増えたとしても、個々に尊重されるべき存在であるということ、その方の生活が明るく楽しいものとなるような、認知症ケアを行っていかなければならない。それらを踏まえた上で具体的な事例と共に虐待の種類について学び、職員の気づきと理解を深めるように構成されていた。

またアンガーマネジメントの説明では、衝動を抑えること（6秒我慢）、思考のコントロール（～すべきを捨てる）、行動のコントロール（しようがないことは割り切る）の3点に触れ、これらを実践することで年収が2倍になり、寿命が7年伸びるとのことであった。参加した職員からも「怒りを噴出させることは、自分自身も周囲も傷つけることになりプラスの効果が全くないことを知り、仕事でも家庭でも気を付けていこうと思った。」などの声が聞かれた。

普段何気なく口にして言っている言葉や行動について改めて見直すことができ、職員個人の振り返りと他者の言動をチェックしてお互いに声を掛け合うことの重要性を学ぶ良い機会となった。

#### 第二回 法人研修

テーマ：幹部職員向け階層別研修

日 程：令和元年10月4日（金）

時 間：18時～20時

講 師：東京YMCA医療福祉専門学校 渡邊義昭先生

参加者：計18名

<実施報告>

平成7年の開設から24年の歳月が流れ、小川ホームも様々な変遷を辿りながら、職員

の組織力強化に尽力してきた。近年における介護福祉人材不足の打開策を探る上でも、現場におけるサービスマインド向上及び、職員のモチベーションアップとチーム力について学ぶ必要性を感じ、本研修の実施に至った。

まず始めに幹部職員が「当事者意識」と「役割行動」を理解することが大切であるということで、以下のように説明があった。「当事者意識」とは、直面する課題や業務に対して、その事柄に直接関わっている人間だ、ということ意識（認識）していることを指す。この意識が薄れると、責任意識が希薄となり、積極的に行動しないため、課題がいつまでも解決されない、業務が滞るといった大きな弊害が生まれる。「役割行動」とは、自らの職業上の立場や役割に基づいて行動することを言い、自らの責任感と使命感においてやるべきことに全力を尽くすからこそ、恐怖心を取り払うことができ、現場のチーム力を高め最大のパフォーマンスを上げることが可能となる。

またチーム力を高めるためには、職員間の情報共有が重要であるという観点から、伝わる伝え方についての説明があった。コミュニケーション能力には聴く力・説明する力・質問する力・チームでの協調性の4つがあり、これらを駆使してよりよいサービスの提供に努めなければならない。参加した職員からは「今までも情報発信の意識を高く持っていたが、情報は抜け落ち変化するもの、時にはその存在すらなくなってしまうことを知り、何度も繰り返し伝え直していくことが大切だと実感した。」との声が聞かれた。

### 第三回 法人研修

テーマ：中堅職員向け階層別研修

日 程：令和2年2月13日（木）

時 間：18時～20時

講 師：東京YMC A医療福祉専門学校 渡邊義昭先生

参加者：計35名

<実施報告>

幹部職員向けの研修内容を現場の状況に精通している中堅職員の立場に特化した内容に変更し、施設の中核を担う中堅職員のモチベーションアップにつながることを目的として本研修が実施された。

演習1では、自分の価値観と他者の価値観を知るということで、自分の人生や仕事に近いイメージと一番近い写真を選ぶ課題が与えられた。他部署の者同士が集まり、各自それぞれの選択した理由や思いを語り合うことで、お互いについての共感と理解を深めていた。演習2では、一方通行のコミュニケーションから双方向のコミュニケーションへとして、多少の複雑さを持った簡単な図形をグループ内で選出した1名の職員に見せ、1回目は相槌も質問も禁止した状態で説明し、2回目はうなずきや質問をした上でどれだけ正解に近づけるかを試みた。正しく伝わるのが目的ではなく、言葉の曖昧さや誤解が生じる過程を知ることの大切さを学ぶことができた。

最後に講師より「現場の先輩として利用者にとって何が一番良いのか、どのようにしたら良いのかを考え、幹部職員では拾いにくい現場の声を同僚や後輩から聞き取って、報告・相談してほしい」という言葉で講義がしめくくられた。



(6) 防災訓練

実施日	訓練内容	参加者
令和元年8月23日 10時00分から 21時00分まで	防災照明への点灯訓練、炊き出し訓練を実施。夏祭り前日中、実際に灯光への送電訓練を実施。また震災炊き出し準備訓練としても、ガスボンベ・鉄板・コンロ・テント等々を設置し職員の約半数が訓練に参加した。	防火管理責任者 施設長 生活健康課長 を含む 職員約50名
令和元年10月11日 13時00分から 16時00分まで  令和元年10月17日 9時から 16時30分まで	停電想定発電訓練(震災・台風災害) 震災後の復旧及び維持活動BCPを目的とした訓練として、ポータブル発電機を用い、災害照明・ケアコール・吸引機・電話交換主装置への送電、及びインターネット回線確保のための送電とPC動作確認について、燃料の補給から送電まで、トランシーバーで連携しながら電源確保訓練を実施した。 10月12日には体験したことのない大型台風の接近があり、実際に停電の発生の可能性もあったことから前倒しに準備した。 10月17日は電気設備点検の実施日でもあり、実際に外部電源の喪失の中で、発電機を運転し給電及び灯光等の送電と、バッテリーライトで補助照明を行う訓練を実施した。	防火管理責任者を含む 職員約10名
令和元年10月25日 14時20分から 15時00分まで	夜間想定総合訓練 ①特養では夜勤の時間帯に地震発生の後出火したことを想定し、初期消火を早期に行った。 ②デイサービスにあつては日中を想定し、利用者を介助しながら誘導と点呼の実施を行った。 避難誘導：担架・車いすでの階段救護・独歩・車いす者の避難誘導 防災設備の取扱い訓練 ライフタワーで降下・火災報知器の発報・非常放送装置の作動と放送・消火器、消火栓の取扱い・放水訓練・スプリンクラーの取扱い	防火管理責任者 施設長 生活健康課長 を含む 施設職員 約25名 利用者 約25名
令和2年3月30日 14時00分から 15時30分まで	夜間想定総合訓練 新型コロナ対策で密集できないことから、内容を変更して実施した。 ①特養小川ホームでは日中の地震発生を想定し、全員でシェイクアウト訓練を実施した。その後火災が発生したことを想定し、選抜メンバーで避難訓練を実施した。就業歴の浅い職員を中心にフリップを見ながら震災時の落下物、並行避難、閉鎖障害、自火報の仕組みなどを説明した。 ②デイサービスにおいては①と時間をずらして日中を想定し、利用者を介助しながら誘導訓練、震災時の落下物の危険性、火災発生時の避難について、フリップ説明とシェイクアウト訓練等を行った。	防火管理責任者 施設長 生活健康課長 を含む 施設職員 約20名 利用者 約25名

## 指定介護老人福祉施設 小川ホーム

### 事業報告

#### 運営概況

今年度の目標は、「働きやすい職場環境の整備」「安定した財務基盤」「公益事業」の大きく3つの柱を中心に取り組んできた。

まず「働きやすい職場環境の整備」については、少子高齢化や生産年齢人口の減少など社会的要因が強く人材獲得に非常に苦勞し、下半期途中から人材派遣サービスを利用し人材確保に努めた。また人材の定着においても仕事に対する興味や志向性の低下など個人的要素の他、業務内容や規則、人間関係等環境の不一致から離職に繋がるケースもあるなど、職員が定着しない要因の一つとして育成体制の不備が挙げられる。事実、現場では業務手順や方法を中心に指導する傾向にあり、結果として支援の目的が理解されないまま、単に作業としてこなす事だけになってしまい、仕事を通して成功体験ややりがいを得ることができないなど指導力不足が課題となった。

法人では一昨年度に人事考課制度を整備し、今期は施設運営の中核を担う幹部職員及び中堅職員を対象とした研修会を実施するなど職員育成の強化に努めてきた。来年度はその成果を発揮できるよう各職種の専門性を磨き、真に働きやすい職場環境を整えていきたい。

次に「安定した財務基盤」であるが、質の高いサービス提供と稼働率96%を掲げ、外部研修への職員派遣、毎月事業所内で研修を実施するなど職員の資質向上に努め、一定の効果は見込めたと実感できた。また稼働率においては目標を下回る結果となり、入所者の重度化に伴う介護量と人材不足による業務量の増加、さらには健康管理や外部機関との連携の難しさなど、複雑に絡み合った課題を一つひとつ分析し、解決に向けて取り組んでいく必要がある。来年度は、職員の負担となっている書類等記録の事務的業務時間量の軽減と、今期蔓延した肺炎球菌性肺炎等感染症予防強化を挙げて取り組んでいきたい。

最後に「公益事業」については、小川ホームを知ってもらうことを目的に「おがわんフェスティバル」を11月に開催。小平市やボランティア中央西圏域二層協議会、ブリジストンや白梅学園大学など、地域で活動する企業や学校・団体の協力を頂き、約400名の集客があった。また法人としても入所者がいつも食べているカレーを提供し、入所者や職員との交流も図るなど、地域に小川ホームをアピールすることができた。今後の課題としては、地域ニーズの把握とそれに応じた事業展開ができるよう、検討段階から地域の方々に参加してもらい、施設として何ができるかを模索していくことが必要である。

また今期は職員向けにボランティアに対する理解を深めるために基盤づくりに取り組んだ。定期的なカンファレンスの開催やウェルカムボードを作成し、職員とボランティアを繋ぐ活動を行った。さらには市内ボランティア連絡会に参加し、情報交換など相互に連携図り人材確保に向けて協働した。その結果、小川ホームでは新たに傾聴、清掃、アロマハンドトリートメントのボランティアを受入れることができ、更には毎年実施しているボランティア感謝会にも約50名の参加があるなど、改めて当施設は多くのボランティアに支えられていることを実感した。

そして実習生については、新規で介護実習1校と中学校の職場体験では昨年の約5倍の生徒を受け入れ、高齢者とのふれあいを通して介護の魅力を伝えることはできたが、実習生に対する指導が中心になってしまい、職員に実習生を受入れる必要性を伝えていくことができなかった。福祉人材を確保するには時間をかけて取り組んでいく必要であるが、次年度はそのことを職員に伝えるところから始めていきたい。以上、今年度の事業報告とする。

1. 入所者の状況

(1) 月別入所実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	72	73	73	73	71	72	72
延べ人数	2,094	2,157	2,054	2,126	2,006	2,009	2,114
1日当り	69.8	69.6	68.5	68.6	64.7	67.0	68.2
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※30年度
件数	75	74	76	75	73	879	878
延べ人数	2,037	2,060	2,153	2,006	2,040	24,856	25,002
1日当り	67.9	66.5	69.5	69.2	65.8	67.9	69.5

※ 以下統計資料は令和2年3月31日現在の入所者を対象

※ 措置制度からの継続入所者は、在籍していません

(1) 介護保険者（市・区）別入所者

	男性	女性	計
小平市	12	56	68
他市区	0	4	4
計	12	60	72

(2) 生活福祉受給状況

種別	男性	女性	計
全面生活保護受給	0	0	0
医療費単独給付受給	0	3	3
計	0	3	3

(3) 入所者の要介護度等の状況

a. 要介護度の内訳

	現入所者	
	男性	女性
要介護1	1	1
要介護2	0	3
要介護3	3	25
要介護4	2	14
要介護5	6	17
計	12	60
介護度平均	4.0	3.71
総員介護度平均	3.76	
介護度4・5の占める割合	54.16%	

b. 障害高齢者の日常生活自立度

障害自立度	状況	男性	女性	計
J1	生活自立	0	0	0
J2		0	0	0
A1	準寝たきり	2	20	22
A2		5	9	14
B1	寝たきり	2	8	10
B2		2	15	17
C1		1	6	7
C2		0	2	2
計		12	60	72

c. 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症自立度	男性	女性	計
自立	0	2	2
I	2	3	5
Ⅱa	0	2	2
Ⅱb	1	5	6
Ⅲa	5	21	26
Ⅲb	1	19	20
IV	3	6	9
M	0	2	2
計	12	60	72
Ⅲa以上の占める割合		79.1%	

d. 年齢構成

年齢	男性	女性	計
65歳未満	1	0	1
65～69	1	0	1
70～74	2	0	2
75～79	3	3	6
80～84	2	10	12
85～89	2	17	19
90～94	1	18	19
95以上	0	12	12
計	12	60	72
平均年齢	77.75	89.38	87.44

## (4) 入所理由

	男性	女性	計
	主たる理由	主たる理由	主たる理由
身体的	5	10	15
精神的	4	11	15
経済的	0	1	1
家庭的	3	38	41
その他	0	0	0
計	12	60	72

## (5) 入所前の状況

入所前の状況	男性	女性	計
自宅から入所	3	26	29
老人保健施設から入所	6	19	25
老人福祉施設から入所	0	0	0
病院及び療養型から入所	2	10	12
その他入所（有料、グループホーム等）	1	5	6
計	12	60	72

## (6) 年度内の入退所者件数

	入所		計	退所		計
	男性	女性		男性	女性	
要介護3	2	11	13	0	2	2
要介護4	2	3	5	2	5	7
要介護5	3	1	4	6	8	14
その他	1	1	2	0	1	1
計	8	16	24	8	16	24

※ 入所：その他の2名は、入所時点は要介護4。現在は1と2である。

※ 退所：その他の1名は、退所時点で要介護2。

## (7) 退所理由

理由	男性	女性	計
家族引取り	0	0	0
他施入所	0	0	0
長期入院・療養型	1	7	8
施設内死亡	看取	1	1
	検死	2	4
入院後死亡	5	6	11
計	8	16	24

(8) 障害者手帳取得状況

種別	人数
1級	2
2級	3
その他の障害	2
手帳なし	65
計	72

2. 処遇の状況

【日常生活援助】

(1) 排泄

プライバシーの保全、尊厳を損なわない配慮をしながら援助

項目	日中			夜間		
	男	女	計	男	女	計
自立	2	9	11	1	6	7
トイレ誘導	4	25	29	0	3	3
ポータブル介助	0	0	0	0	11	11
尿・便器介助	0	0	0	1	0	1
オムツ	5	26	31	9	40	49
その他	1	0	1	1	0	1
計	12	60	72	12	60	72

※ さりげなく、暖かく、しかも注意深くプライバシーを守ることを重視し、個々にあった援助を行っている。日々の対応で尿、便意がある方をケースミーティングに取り上げ、自立へ移行するように、職員の意思統一を図り努めている。また、コストダウンも考え、数社の紙おむつサンプルを取り寄せ、品質と価格の検討も行った。今後も常に良い方法を考慮していきたい。

(2) 更衣 残存機能と清潔保持に努めている。

項目	男	女	計
自立	2	9	11
一部介助	2	16	18
全介助	8	35	43
計	12	60	72

一部介助 衣類を準備し障害の程度に応じて介助する方

全介助 疾患により自ら行えない方

(3) 洗面

項目	男	女	計
自立	2	11	11
一部介助	5	17	18
全介助	5	32	43
計	12	60	72

一部介助 洗面所に誘導し、タオルで拭ける方（声掛けを含む）

全介助 タオルにて介助

(4) 口腔ケア

口腔清拭保持と状態観察

項目		男	女	計
自立		2	12	14
要 介 助	声かけ	2	7	9
	うがい	2	4	6
	義歯	3	22	25
	歯磨	3	10	13
	コットン	0	5	5
計		12	60	72

声かけ 声かけして歯ブラシに歯磨き粉をつけて促す

洗 口 歯のない方はシンリング（すすぎ、うがい）を実施

義 歯 職員が歯ブラシで洗浄、うがい介助、夜間はポリデント洗浄

歯 磨 歯のある方で一部介助が必要な方

ガーゼ ガーゼにて洗浄

(5) 入浴

清潔保持とともに全身の状態観察を行い、心理的に満たされた入浴を楽しんでいた  
だけよう実施している。

項目	男	女	計	
自立	1	2	3	
介 助	一部介助	1	15	16
	全介助	9	33	42
	清拭	0	1	1
	機械浴（ストレッチャー）	1	9	10
計	12	60	72	

一部介助 洗う意欲はあるが不十分な方

全介助 疾患により不十分な方

※ 清潔保持と心身のリラックスのため、月～土曜日の入浴日を設定して、利用者1名に対し週2回の入浴を実施している。入浴チェック表に基づき状況を把握し、ADLに合わせた入浴を実施し、個々の好みを尊重し、時間設定した対応をしてきている。

(6) 食事

温かい雰囲気ですくすく食べられるよう配慮し提供している。

項目	男	女	計
自立	6	32	38
一部介助	3	9	12
全介助	2	14	16
経管栄養等	1	5	6
計	12	60	72

一部介助 スプーンや手づかみで口に運ぶが殆どこぼしてしまう方。

声かけして、口元にスプーンを持っていき、口をあけてもらう方。

全介助 食べる動作を忘れるなど、動作ができない方。

※ 食事は健康を維持するための栄養、毎日の活力のエネルギー源である。また何よりも日常生活の楽しみのひとつとなっている。その人に合った食事、その人の好む食事を目標にしてきざみ食や、ミキサー食などの加工をする他、食器などの工夫も行っている。「セレクトの日」で、好みのメニューを選ぶなどして、行事などで変化のある食事を提供している。又、厚生労働省が定める、管理栄養士の配置、適時適温及び食事時間等の基準を満たして提供している。

※ なお、「行事食メニュー」「食糧構成基準量と摂取量」は別記を参照。

(8) 移動・誘導

残存機能を活用し、個々に合った介助を行っている。

項目		男	女	計
自立	歩行	1	2	3
	シルバーカー歩行器	0	5	5
	車椅子	1	5	6
要介助	誘導	1	1	2
	誘導(杖)	0	2	2
	車椅子(一部介助)	1	8	9
	車椅子(全介助)	8	32	40
	歩行介助	0	5	5
計		12	60	72

自立歩行 声かけのみで目的地へ行ける

誘導 声かけし、職員と一緒に目的地まで行ける

車椅子一部介助 移動のみの介助で、声かけで目的地まで行ける

車椅子全介助 移動し、職員と一緒に目的地まで介助



【健康状況】

(1) 定期診察状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
内科	69 (100)	71 (99)	67 (104)	67 (110)	65 (82)	65 (104)	69 (120)
整形外科	15 (13)	16 (14)	16 (14)	16 (13)	10 (10)	11 (11)	13 (10)
精神科	35 (23)	36 (25)	34 (23)	34 (23)	31 (23)	27 (21)	26 (17)
歯科	61	46	62	64	44	46	47
項目	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総数
内科	70 (111)	67 (107)	69 (110)	70 (108)	72 (104)	821 (1259)	2080
整形外科	12 (9)	13 (8)	10 (8)	6 (4)	5 (3)	143 (117)	260
精神科	30 (20)	32 (19)	34 (25)	34 (25)	33 (27)	386 (271)	657
歯科	38	62	41	52	64	627	
						計 3624	

【診察のみ（診察処方）とで区別してカウント】

(2) 健康診断状況とインフルエンザ予防接種・肺炎球菌ワクチン接種

※ 定期健康診断は誕生月に1回実施

※ インフルエンザ予防接種は、利用者全員に希望を伺う（入院中接種者除く）。

希望者には南台病院下山医師による接種を実施。

- 季節型インフルエンザ接種者           66名
- 肺炎球菌ワクチン接種者           9名（内、新規入所時接種：6名）

(3) 外来受診状況

診療科	内科		脳神経外科		整形外科		皮膚科		眼科	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	30	166	0	6	3	25	2	16	0	11
診療科	泌尿器科		精神科		救急外来		その他			
	男	女	男	女	男	女	男	女		
件数	9	3	2	0	2	12	0	8		

## (4) 受診先医療機関

医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数
南台病院	205	一橋病院	9	東大和病院	17	公立昭和病院	8
多摩北部医療センター	2	国立精神神経センター	2	セントラルクリニック	7	西東京中央総合病院	2
緑風荘病院	12	あかしあ脳外科	4	浅谷眼科	4	その他	6
						計 278 件	

## (5) 入院期間

日数	0～7	8～14	15～30	31～90	90～	合計
男	3	1	4	10	0	18
女	4	5	13	18	1	41
計	7	6	17	28	1	59

## (6) 入院患者病名

病名	人数	病名	人数
肺炎（気管支炎含む）	18	食欲不振	2
肺炎球菌性肺炎	14	精査目的	2
脱水	4	脳出血	1
腎盂腎炎	3	尿路感染症	1
心不全	3	重度貧血	1
老衰	3	逆流性食道炎	1
悪性腫瘍	3	脳梗塞	1
下肢骨折	3	腸閉塞	1
胆嚢炎	2	腎不全	1
敗血症	2	急性心筋梗塞	1

【延べ人数でカウントしております】

## 【行事】

## (1) 実施行事

実施月日	行事名	内容	実施場所
4月5日	花見	施設周辺を散歩し桜を見て季節を感じる。	ホーム外
5月20～22日	菖蒲湯	入浴の際に浴槽内で菖蒲の香を楽しむ。	ホーム内
6月16日	演芸会	家族と一緒に余興と食事をしながら、楽しい時間を過ごす。	ホーム1階

7月1～7日	七夕	短冊に願を込めてフロアの笹に飾る。	ホーム内
7月20日	かき氷	かき氷で“涼”を楽しむ。	ホーム内
7月13～16日	盆供養	祭壇を飾り、迎え火・送り火を焚き供養する。	駐車場
8月23日	ビアガーデン (夏祭り)	屋外に屋台を出店し、御家族と共に夏を楽しむ。	駐車場 ホーム1階
9月15日	敬老会	家族と一緒に敬老の日をセレモニーや祝い膳などでお祝いする。	ホーム1階
12月15日	ゆず湯	冬至にゆず湯に入り、香を楽しむながら、健康を願う	ホーム内
12月19～21日	年忘れ会	一年の苦労を御家族と共に労い、慰労する	ホーム内
1月1日	新年祝賀会	フロアを優雅に装飾し、おせち料理やお屠蘇で新年の幕開け祝う。日本の正月を愉しむ	ホーム内
2月3日	節分	豆まきで厄を払い、恵方巻や福ご飯で福を呼ぶ。	ホーム内
3月3日	ひな祭り	雛人形を飾り、江戸ちらしやひな饅頭で桃の節句を祝う	ホーム内

## (2) 定例行事

- 利用者懇談会 毎月利用者の意見や要望を伺うと共に連絡の場として実施している。
- クラブ活動 書道・華道・料理を実施し、ボランティアによるハーモニカ・朗読の会・お茶の会・各種楽器演奏を実施している。
- 理容・美容 毎月理容1回、美容2回地域の理美容師により実施している。
- 嗜好品購入 生活協同組合「コープみらい」のカタログから、お菓子などの嗜好品を利用者が選び、配達を受けている。

## 3. 実習生・ボランティアの受け入れと地域福祉

### (1) 実習生の受け入れ

学校名	人数	延べ人数	研修(実習)目的
白梅学園大学	3	88	介護実習
武蔵野美術大学	17	136	教員実習に伴う介護体験
東京医療保健大学	6	24	看護実習
多摩職業能力開発センター八王子校	5	25	介護実習
小平市立第二中学校	32	34	体験学習
小平市立第五中学校	7	35	体験学習

## (2) ボランティアの受け入れ状況

グループ名	内容
寿々の会	衣類・タオルたたみ・話し相手・行事など
グループ宙	衣類・タオルたたみ・散歩・行事など
すずめの会	紙芝居・指人形・読み聴かせなど
あじさいの会	話し相手
愛子会	キーボードを演奏し、テンポの良い振付で、懐メロや唱歌を歌って下さる。(年3～4回実施)
個人	クラブ活動・話し相手・食事介助・そうじ・歌・ハーモニカ・理容・美容・買い物・お茶・絵手紙・書道・華道等・営繕

日常の業務を直接的、間接的に手伝って頂き大きな力になっている。積極的にボランティアを受け入れることで利用者の生活が拡大している。

## (3) 地域福祉

学校名	内容
たかの台幼稚園	園児達が来園し歌や手遊びを披露し交流をする。
小平市立第十三小学校	小学校に出向き、学生と給食を食べながら交流する。

福祉サービスを必要とする人たちが地域社会を構成する一員として、社会、経済、文化に限らずあらゆる分野の活動に参加する機会を得ることができるよう努めている。

## 4. 各係

### (1) 介護事故予防委員会

利用者特性から定期的にリ・アセスメントを実施し、リスクヘッジをとることで事故予防に努めてきた。ケアカンファレンスや研修を通じて、職員に対し事故予防策の周知徹底と危険予測能力の向上を図ったが、結果、事故件数は前年とほぼ横ばいで5件減(昨年166件発生)に留まった。その中でも防げる事故として、見守りセンサー等介護用品の不適切な取り扱いから、事故が発生するケースもあり、ヒューマンエラーをいかに防止するかが重要になる。次年度も引き続き職員教育に努めていくことと、多忙な業務環境の改善にも注力していきたい。

### (2) 身体拘束廃止委員会

言葉による拘束ゼロを目指し、身体拘束等の適正化のための研修として「スピーチロック」について理解を深めた。また相手や自分のイライラに振り回されず衝動的な行動をとって後悔しないように「アンガーマネジメント技術」を研修に取り入れた。

自分の伝えたいことを上手く伝えられるテクニックを習得できるよう現場教育に努めてきたが、残念ながら苦情に繋がるケースもあった。この背景には“誤解”があるものの現場で働く職員が不適切ケアを正しく理解し、利用者一人ひとりの人権尊重・尊厳保持を絶対とし行動する必要がある。次年度も引き続き職員教育に努めていきたい。

### (3) 感染症予防委員会

食中毒とノロウイルス・インフルエンザの予防について、各感染症の特性と標準予防策の重要性を中心に年 2 回の研修を実施。多摩小平保健所から手洗いチェッカーを借入れ、正しい手洗い方法についても学んでもらった。

また感染症対策については、保健所等の社会状況を注視しながら、協力医療機関や協力医からも情報を収集し予防に努めたが、今期は入所者 9 名がインフルエンザに罹患（予防接種については約 9 割接種済）、さらには肺炎球菌感染症で入所者 5 名が入院した。とりわけ肺炎球菌感染症は、助成金制度と対象年齢、予防接種の薬効等、様々な要因から接種が進まない状況もあったため、下期から入所時点で状況を確認し、接種してもらうよう体制を整備した。

なお現在は新型コロナウイルス（COVID-19）が世界的に流行しているため、利用者や職員の命を守ることを第一に考え、施設でできることから取り組んでいきたい。

### (4) 看取り介護委員会

入所者の重度虚弱化が進む中、今期は 1 名の方を施設で看取ることが出来た。看取り対応となってから 25 日間のという短い期間だったが、家族と一緒に過ごす時間を大切に支援させて頂き、家族から最後に「小川ホームで良かった」という言葉を頂けたことは、今も我々の至上の言葉となっている。

今後も施設で最期を迎える機会が増えることが予測される。そのため次年度は、最善の看護と介護ができるよう看取り加算の取得も含め、体制を整備していきたい。

### (5) 褥瘡予防委員会

障害高齢者の日常生活自立度が示す通り、介助がなければ寝たきりの状態にある入所者が半数に上り、食事・排泄・入浴からのアプローチの他、除圧マットレスやリクライニング車椅子の追加導入、衣類・リネン類の補整強化など褥瘡予防対策を実施してきたが、完全に褥瘡を無くすことはできなかった。

多くは病院入院中に発症したものだが、施設でも褥瘡を発生させてしまっている。その大きな要因としては、体位変換及び除圧の不十分さや介護職との連携不足から対策が確実に実施できなかったことが挙げられる。次年度は予防の重要性と介護職との連携を強化し、医療と介護の両面から適切なサービスを提供していきたい。

### (6) 生活支援係

利用者の安定した生活を目指し、水分補給への理解と強化を行った。外部業者によるトロミ剤の正しい手技と性質について研修を行い、利用者個々に合ったトロミ剤の適正濃度を見直し、嚥下機能が低下している方の水分補給についても十分な水分確保が維持できるようになった。

排泄ケアについても「陰部洗浄の正しい手技理解とオムツ類の特質」の研修会を行い、主な尿路感染や皮膚疾患の予防に役立てた。また正確なオムツの選定を行うことで利用者の生活の質の向上やコスト削減も検討したが、情報発信不足から周知徹底で

きず、次年度の課題となる。この他、係内の役割明確化についてもしっかりと定着できるように引き続き尽力していく。

(7) ケアプラン係

“その人らしい生活”の実現に向け、ケアマネジメントとり・アセスメントと通し、個々の心身事象を把握した上で介護計画作成に努めた。また社会資源の活用については、これまで通りフォーマル・インフォーマルサービスを活用しサービスの適正を図った。

しかし施設では集団で生活する場面が存在するため、絶対的な個別性を確立できたかという課題が残る。また統一したサービス提供についても、アナログ式の計画管理関連業務も改善が必要と考える。今期は職員の入れ替わりが続いたこともあり、利用者への関わりに無為を生じる場面もあった。

次年度は適正なサービスを提供する上でも、更なる社会資源の活用と職員が容易に情報収集できる環境を整備する必要がある。

(8) レク・クラブ係

係を中心として余暇活動の時間に体操や歌、クイズ等のレクリエーションを行えた。特に3階は早番が行う事が浸透している。季節の行事としては、施設の壁や天井に装飾を季節ごとに張り替え、それぞれの季節にあった行事を行うことができた。課題としては、レクを出来ていない事もあった為、利用者に少しの時間でも楽しんでいただけるように職員誰でも簡単にできるよう、レク手順のマニュアル化とレクメニューを増やす必要がある。

またクラブ活動については、料理、書道、華道、各クラブを月に一度実施。料理クラブでは、具材を混ぜたり、飾り付けをしたり残存機能を活かし、さらには目で見て匂いを感じ、焼いた音を聞き、食べる事で五感を刺激する活動ができた。また華道クラブは、剣山からオアシスに変更することで、力のない利用者でも自分で花を活けることが出来るようにした他、書道はボランティアの講師の方に来てもらい季節に合わせたお手本を見ながら、さらなる充実を図ることができた。次年度は余暇活動の充実に向けできることから進めてきたい。

(9) ショートステイ係

※ ショートステイ係は、短期入所生活介護事業報告欄を参照。

5. 栄養、給食関係

給与栄養基準量と摂取量

給与栄養基準量		給与栄養量	
		基準量	摂取量
エネルギー	(kcal)	1500	1519
たんぱく質	(g)	58.0	57.8
脂質	(g)	35.0	35.4
カルシウム	(mg)	658	650

鉄	(m g)	6.2	7.9
ビタミンA	(μ g)	675	656
ビタミンB1	(m g)	0.96	0.78
ビタミンB2	(m g)	1.13	0.84
ナイアシン	(m g)	10.5	12.6
ビタミンC	(m g)	100	97
食塩相当量	(g)	7.2 以下	7.2
食物繊維	(g)	17.3	13.2
炭水化物エネルギー比	(%)	63.5	63.8
脂肪エネルギー比	(%)	21	21
蛋白質エネルギー比	(%)	15.5	15.2

給与栄養基準量		基準栄養量に対する 給与摂取量の比率
エネルギー	1500 k c a l	101%
タンパク質	58 g	100%
脂質	35 g	101%

(令和2年3月分)

行事食メニュー (平成31年度)

月	日	行 事	献 立
4	1	桜祭り	桜ご飯、清汁、揚げ鶏のみぞれかけ、けんちん煮、 小松菜のごま和え ＜間食＞ねりきり（桜）
	4	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、かぶのかにあん、 小松菜の磯和え
	6	赤飯の日	赤飯、味噌汁、さばの立田揚げ、かぼちゃの甘辛煮、浅漬け
	7	郷土料理の日	～沖縄県～ ジューシー、味噌汁、フーチャンプルー、 かぼちゃの含め煮、シークワサーゼリー
	11	お楽しみ献立	ご飯、清汁、刺身（まぐろ、甘海老、サーモン）、 かぶのそぼろあん、菜の花サラダ
5	5	端午の節句	散らし寿司、清汁、炊き合せ、抹茶プリン ＜間食＞生菓子（鯉のぼり）
	9	お楽しみ献立	ターメリックライスの魚介モルネソースかけ、 コンソメスープ、カリフラワーのアボガドソース、ババロア
	12	母の日	鯛めし、清汁、茶巾盛り合わせ、しめじと青菜の和え物 ＜間食＞ キャラメルケーキ
	13	赤飯の日	赤飯、清汁、鮭の照り焼き、がんもの含め煮、酢の物

6	5	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鮭の香味焼き、厚揚げと野菜のくず煮、浅漬け
	13	お楽しみ献立	ご飯、味噌汁、コロッケ盛り合わせ（じゃが芋コロッケ、かにクリームコロッケ）炊き合わせ、みかんのフルーチェ
	16	運動会	<お弁当>太巻き、いなり寿司、から揚げ、えびフライ、マカロニグラタン、シューマイ、筑前煮、抹茶ようかん
	20	郷土料理	～福岡県～ かしわ飯、清汁、かれいの明太マヨ焼き、がめ煮、漬物
	23	父の日	鮭の散らし寿司、清汁、夏野菜の炊き合わせ、お浸し（間）どら焼き
7	7	七夕	三色そうめん、天ぷら、豆腐の蟹あんかけ、星ゼリー
	11	お楽しみ献立	祭り寿司、冷しそうめん汁、冬瓜のかにあんかけ、柚子水まんじゅう
	18	赤飯の日	赤飯、豚汁、ブリの照り焼き、里芋の煮付け、海老と三つ葉のみぞれ和え
	27	土用丑の日	うな井、清汁、夏野菜の炊き合わせ、小海老の酢の物
8	10	郷土料理の日	～山形県～ ご飯、芋煮汁、枝豆入りハンバーグの甘辛煮、冷や汁（煮浸し）、だし（和え物）
	12	お楽しみ献立	枝豆と茗荷の生姜ご飯、清汁、フライ盛り合わせ、冬瓜の冷やし葛あん、抹茶水まんじゅう
	15	終戦の日	さつま芋ご飯、すいとん、魚の煮付け、角天の炊き合わせ、しその実和え
	22	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鮭の香り蒸し、炊き合わせ、胡瓜の酢の物
	23	ビアガーデン	やきそば、お好み焼、焼き鳥、もつ煮、ソフトクリーム、ビール、ジュース、流しそうめん
9	15	敬老の日	<松花堂弁当> 赤飯、お吸い物（かまぼこ、三つ葉）前菜（青菜のきのこ和え、菊花と長芋の酢の物、蟹の重ね蒸し、厚焼き玉子、甘味（寿ねりきり）炊き合わせ（六角里芋、亀さつま芋、鶴人参、南瓜、魚河岸揚げ、絹さや）、焼き物（鶏肉の野菜巻き）天ぷら抹茶塩添え（舞茸、ピーマン、海老）
	19	お楽しみ献立	五目寿司、きのこ汁、茄子の肉みそがけ、きなこプリン
	25	郷土料理の日	～群馬県～ 釜めし、しこね汁、みそ田楽、白和え
10	4	赤飯の日	赤飯、けんちん汁、鮭の幽庵焼き、炊き合わせ、酢の物
	10	郷土料理の日	～大分県～ ひじきご飯、味噌汁、とり天、筑前煮、酒まんじゅう
	13	お楽しみ献立	鮭の親子丼、清汁、揚げ茄子の田楽、秋の酢の物
11	1	赤飯の日	赤飯、清汁、揚げ鶏のみぞれかけ、炊き合わせ、もやしの和え物
	2	郷土料理の日	～京都府～ 大根菜飯、味噌汁、鮭の湯葉あんかけ、炊いたん、千枚漬け
	15	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、豆腐の海老あん、ピーナッツ和え



	17	お楽しみ献立	ねぎとろ丼、清汁、厚揚げの五目煮、ほうれん草と菊花のお浸し
12	5	郷土料理の日	～東京都～ 深川丼、清汁、揚げ出豆腐、小松菜の磯和え
	6	お楽しみ献立	ご飯、すき焼き、温泉卵、三食なます
	11	赤飯の日	赤飯、清汁、鯖の西京焼き、じゃが芋煮、風味和え
	15	年忘れ会	<クリスマス弁当> 太巻き、サラダ巻、サーモンの握り、チキンのたらこソース、海老とブロッコリーのフリッター、さつま芋のツリーサラダ、浅漬け、一口ロールケーキ コーンかき玉スープ
	24	クリスマス	洋風ピラフ、コンソメスープ、シーフードのクリーム煮、鴨と卵のサラダ、ホワイトチョコムース
	31	年越しそば	ご飯、一口年越しそば、うなぎの蒲焼き、炊き合わせ、りんごのコンポート
1	1	正月	赤飯、お吸い物、おせち料理 一の重：伊達巻、紅白蒲鉾、黒豆、数の子、栗きんとん、松竹梅羊羹 二の重：甘鯛の西京焼き、鶏の八幡巻き、紅白なます、海老の艶煮、サヨリの大根巻き、昆布巻 三の重：煮しめ（松大根、ねじり梅人参、野菜しんじょう、椎茸、穂先たけのこ、こんにゃく、六角里芋、ふき、絹さや）
	2	正月	ご飯、お雑煮風汁、鯖の西京焼、一口がんもの炊き合わせ、千枚漬け
	3	正月	ねぎとろ丼、きのこ汁、揚げだし豆腐、オクラの梅肉和え
	5	郷土料理の日	～北海道～ ご飯、かしわぬき、鮭のチャンチャン焼き、かぼちゃしるこ、昆布和え
	7	七草粥	七草粥、厚焼き玉子、きんぴら蓮根
	10	赤飯の日	赤飯、清汁、白身魚のかぶら蒸し、茄子のそぼろあん、菜の花のお浸し
	2	3	節分
2	3	節分	(夕) 福ご飯、味噌汁、節分焼き、さつま芋のオレンジ煮、胡瓜とわかめの酢の物
	6	お楽しみ献立	牛丼、清汁、温泉卵、もやしのナムル
	15	郷土料理の日	～静岡～ 桜海老のかき揚げ丼、味噌汁、枝豆のあんかけ豆腐、黒糖まんじゅう
	21	握り寿司の日	握り寿司、かんぴょう巻き、清汁、かに豆腐、小松菜のピーナッツ和え
	3	3	桃の節句
3	10	赤飯の日	赤飯、きのこ汁、赤魚の煮付け、ひき肉と春雨の炒め物、胡麻和え
	19	お楽しみ献立	鯛めし、清汁、炊き合わせ、浅漬け

短期入所生活介護  
事業報告

**運営概況**

近年、家族介護の難しさが社会問題になりつつある中、レスパイト（家族負担の軽減）・ケアの需要が高まっている。地域包括ケアシステムの構築において、在宅生活を支える短期入所生活介護（以下「ショートステイ」）は今や必要不可欠なサービスとなっており、当該事業においても利用の一番の目的となっている。

また今期は稼働率 96%を目標に新規利用者層の拡大と受入れ体制の整備に取り組み、生活相談員を中心に法人内外との連携を図り、新規利用者を 80 件受けることが出来た。さらに稼働率についても 102.5%と、地域福祉に貢献する事業としての役割を担うことができた。

その一方で課題も残る。それは昨年にも課題としていたチーム統制を取れるリーダー層の強化である。とりわけ利用者の生活の質を高めるには介護・看護のサポートが重要であり、支援一つひとつが利用者に直結する。さらにその支援が当該事業の特長にもなるため、次年度はそのことを重点的に取り組んでいきたい。以上、今年度の事業報告とする。

1、平成 31 年度月別利用実績

項目 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
件数	30	31	30	31	31	30	31
(件)	31	29	22	22	31	24	20
延べ人数	200	229	278	330	283	268	311
(件)	271	276	224	192	206	156	155
1 日当たり	6.7	7.4	9.3	10.6	9.1	8.9	10.0
(人)	9.0	8.9	7.5	6.2	6.6	5.2	5.0
月平均稼働率	83.7	92.5	116.2	132.5	113.7	111.2	125
(%)	112.9	111.2	93.3	77.4	83.0	65.0	62.5
項目 \ 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	
件数	30	31	31	29	31	366	
(件)	22	30	29	23	22	305	
延べ人数	225	254	177	260	177	2,992	
(件)	166	248	273	203	187	2,557	
1 日当たり	7.5	8.2	5.7	9.0	5.7	8.2	
(人)	5.5	8.0	8.8	7.3	6.0	7.0	
月平均稼働率	93.7	102.5	71.2	112.5	71.2	102.5	
(%)	66.9	100.0	110.0	90.6	75.4	87.5	

上段=31 年度 下段=30 年度

## 2、新規受入れ件数

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
31年度	8	7	10	6	7	7	13	8	2	1	9	2	80
30年度	7	3	2	3	7	2	3	5	7	7	5	6	57

## 3、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男									0.0
	女									
	計									
65～74	男			1	1				2	7.7
	女									
	計			1	1				2	
75～84	男							1	1	23.1
	女				2	1	1	1	5	
	計				2	1	1	2	6	
85～94	男			3	3				6	57.7
	女		1	1	1		3	3	9	
	計		1	4	4		3	3	15	
95～	男								0	11.5
	女				1		1	1	3	
	計				1		1	1	3	
計	男	0	0	4	4	0	0	1	9	100
	女	0	1	1	4	1	5	5	17	
	計	0	1	5	8	1	5	6	26	

(令和2年3月分)

## 小川ホーム デイサービスセンター 事業報告

### 運営概況

各事業目標に対して：

- ① 利用者の心を大切にし、健全で安らかな生活を支えようという、法人理念に沿った対応ができていたと思う。
- ② 中重度者の利用率は、前年度31.7%だったが、今年度27.0%だった。今年度、中重度の方が亡くなられたり、入所されたりするケースが多く見られた。その方々に対しては、寝たきりに近い状況になっても、在宅生活ぎりぎりまで、デイサービスでできる対応を行えたと考える。新規者の傾向としては、介護度は軽いが、認知症などの精神面のケアが必要な方が多い状況だった。
- ③ 目標の27人に対して、4月～2月までの11ヵ月間で、1日平均24.7人だった。登録者数としては、30人に近い状況で営業ができたが、体調不良などのお休みが多く見られた。
- ④ 個別、グループでの活動を通じての、楽しみや活力・集う喜びを得られ、また、心穏やかに過ごせるような援助をできていた。
- ⑥ 法人として、内部研修も行ってきたが、デイサービスでは、非常勤職員が多く、業務終了時間が、17:00（ほとんどがこの時間）と17:30のため、18:15～の研修開始時間に合わせる事が難しいことや研修報告書を書くことの負担感から参加につなげることが出来なかった。
- ⑦ 緩和型デイサービスは、10:00～13:30のサービス提供時間で、昼食付での提供から始めて見たが新規者7名に留まってしまった。通常型デイサービスの体操からの流れの時間に組み込む形式をとってきた。交流の面では、各ご利用者が活発にコミュニケーションをとれる場であったと思われる。生活機能の向上につながるようなサービスについては、デイサービス側の緩和デイの具体的な形を作り上げられず、利用を続ける中で、通常型デイサービスに来られるボランティア活動や、同じテーブルの方ともう少し一緒に時間を過ごしたいというニーズになってしまった。来年度は、一体型という概念を抑えつつ、通常型デイサービスと住み分けができるような仕組みを考え、稼働率を向上していきたい。
- ⑧ 介護職員処遇改善加算Ⅰについては、継続できる状況が保てた。

その他

- ① 研修については、デイサービス事業所内で実施することができなかったが、今後は新人職員研修も含め、改めて研修計画の練り直しが必要と思われる。
- ② 通所介護計画書、アセスメントシートのモニタリングについては、きちんと作成できているが、維持するための労力がかなり必要となっている。
- ③ 常勤会議やデイサービス連絡会が開催できていない状況であったので、来年度は、随時ではなく、開催時期を決め予定を立て実行していきたい。
- ④ 各係の職員交代ができていないので、来年度は、定期的に担当職員が交代できるようにしていきたい。

### 1、月別実績

	内容/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加数	予防	96	105	90	100	99	98	109	107	109	111	128	115	1,267
	介護	554	584	527	583	547	502	535	575	522	500	531	521	6,481
	計	650	689	617	683	646	600	644	682	631	611	659	636	7,748
	(30年度計)	638	691	651	665	681	663	728	692	662	623	588	657	7,939
新規	予防	1	0	0	2	0	2	2	1	2	1	0	0	11
	介護	1	0	3	1	1	1	1	5	4	2	1	0	20
	計	2	0	3	3	1	3	3	6	6	3	1	0	31
廃止	予防	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	4
	介護	2	1	1	6	7	2	2	3	3	3	1	3	34
	計	3	1	1	6	7	2	2	4	3	3	2	4	38
予防	運動機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護	機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	215	233	187	221	206	174	183	197	177	156	171	149	2,269
	入浴(機械)	68	71	77	80	86	89	109	115	115	105	109	130	1,154

### 2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男									0.0
	女									
	計									
65～74	男			1			1		2	6.7
	女			3		1			4	
	計			4		1	1		6	

75～ 84	男			3			1	1	5	28.1
	女	1	3	10	2	2	2		20	
	計	1	3	13	2	2	3	1	25	
85～ 89	男		1	3				1	5	31.5
	女	2	6	8	3	1	2	1	23	
	計	2	7	11	3	1	2	2	28	
90～	男	1	1	1	1		1		5	33.7
	女	1	6	6	7	3	1	1	25	
	計	2	7	7	8	3	2	1	30	
計	男	1	2	8	1		3	2	17	100
	女	4	15	27	12	7	5	2	72	
	計	5	17	35	13	7	8	4	89	

(令和2年3月分)

### 3、移動方法別利用者数

		男	女	計
歩行	自力	11	56	67
	介助	1	6	7
車椅子	自力	2	4	6
	介助	3	6	9
計		17	72	89

(令和2年3月分)

### 4、地域別利用者数

地域名	男	女	計
小川町1	0	3	3
小川町2	0	0	0
小川西町	11	36	47
小川東町	4	13	17
栄町	0	1	1
上水本町	1	1	2

学園西町	1	4	5
学園東町	0	0	0
仲町	0	0	0
津田町	0	8	8
たかの台	0	0	0
上水新町	0	0	0
東村山	0	6	6
東大和	0	0	0
計	17	72	89

(令和2年3月分)

行事

行事名	縁日横丁(暑気払い)
日程	8月5～10日(すいか割り)
場所	活動室
参加人数	150名(延べ利用者、職員)
行事名	縁日横丁(暑気払い)
日程	8月12～17日(かき氷)
場所	活動室
参加人数	163名(延べ利用者、職員)
行事名	夏祭り(ビアガーデン)
日程	8月23日
場所	デイサービス活動室
参加人数	利用者21名 家族15名
行事名	忘年会
日程	12月23～28日
場所	小川ホーム活動室
参加人数	111名(延べ利用者、職員)
行事名	初詣

## 小川ホーム ホームヘルプサービス 事業報告

### 運営概況

平成 31 年度の事業目標「稼働時間月平均 1、200 時間以上実施」を設定したが、前年度と同じく大幅に達成できなかった。

その主な原因としては、平成 31 年 4 月より常勤のサービス提供責任者が 3 名となり、10 月には常勤 1 名退職したため、常勤 2 名体制になり、そのため土日の対応が難しくなった。11 月より土日のヘルプを全て他事業所に移行した。それに伴い、平日のヘルプに関しても、他事業所に移行となったため、大幅に時間数が変更した。常勤 2 名、非常勤のサービス提供責任者だと、現時点の利用者人数に対し、配置人数がギリギリなため、新規獲得も積極的に行うことが出来ずにいる。

この一年間で受け付けた新規依頼は 34 件と前年度の 44 件を下回った。内訳が要介護 10 件・要支援 24 件（旧国基準 18 件、小平市独自基準 6 件）となり、訪問回数の少ない要支援の利用者からの依頼が多くなったためと思われる。一年間の全体（実人数）は平成 30 年度が 1,337 件、平成 31 年度は 1,338 件と利用者人数と 1 件増えているが、全体（延べ人数）は平成 30 年度が 13,117 件、平成 31 年度は 10,395 件となり、比べると 2,722 件と大幅に減っている。毎日訪問介護を利用されていた利用者が亡くなったり、在宅での生活に不安を感じ施設を希望し入所されたり、体調を崩されて入院、その後ショートステイを長期利用された後に自宅には戻られずに施設入所されるケースが多く見られ、同時にヘルパーの慢性的な人材不足も挙げられる。

今後も継続して「特定事業者加算Ⅰ」の加算を算定していくためには、重度（要介護 4 及び 5、日常生活認知度Ⅲa 以上）の利用者を多く受け入れていく必要性があり、人材確保のためにヘルパー養成事業や、新しい雇用形態の創設などを検討していく必要性を強く感じているが、非常勤ヘルパーの高年齢化も進み、両親の介護や孫の世話、体力的に身体介護が負担となり生活援助中心になってきているので、厳しい現状である。

総合事業（旧国基準・小平独自基準）への振り分けは今年度一件に留まり、新規依頼 6 件の計 7 件となっている。今後も生活サポーターの人材確保、及び育成に努めて行く必要がある。



### 1、月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	108	115	115	116	114	117	119
延べ人数	999	963	970	1006	926	945	1000
1日当り	33.3	31.1	32.3	32.5	29.9	31.5	32.3
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※30年度
件数	114	109	105	103	103	1338	1337
延べ人数	765	740	695	627	759	10395	13117
1日当り	29.4	28.5	26.7	31.4	33.0	31.0	35.9

### 2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	事業 対象	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計	構成 比%
～64	男	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1.9
	女	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	計	0	1	0	1	0	0	0	0	2	
65～ 74	男	0	0	4	5	0	0	0	0	9	12.6
	女	0	0	1	2	1	0	0	0	4	
	計	0	0	5	7	1	0	0	0	13	
75～ 84	男	0	2	1	3	3	0	0	0	9	30.1
	女	0	8	5	4	5	0	0	0	22	
	計	0	10	6	7	8	0	0	0	31	
85～ 89	男	0	1	2	3	0	0	0	0	6	36.0
	女	0	5	13	3	5	2	1	2	31	
	計	0	6	15	6	5	2	1	2	37	
90～	男	0	2	2	1	3	0	0	0	8	19.4
	女	0	3	2	4	3	0	0	0	12	
	計	0	5	4	5	6	0	0	0	20	
計	男	0	6	9	12	6	0	0	0	33	100
	女	0	16	21	14	14	2	1	2	70	
	計	0	22	30	26	20	2	1	2	103	

(令和2年3月分)

### 3、地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	33	70	103
他市	0	0	0
計	33	70	103

(令和2年3月分)

#### 4、サービス内容別実績

サービス内容		件数	延人数	サービス 時間 (時間)
訪問型サービスⅣ	月 1 回～ 4 回	19	71	67.6
訪問型サービスⅤ	月 4 回～ 8 回	3	16	16.0
訪問型サービスⅥ	月 9 回～ 1 2 回	2	8	8.0
訪問型サービスⅠ	月 5 回以上	13	65	61.6
訪問型サービスⅡ	月 9 回以上	9	81	78.7
訪問型サービスⅢ	月 1 3 回以上	0	0	0.0
訪問型サービスⅣ/2	月 1 回～ 4 回 (緩和型)	7	24	24.0
訪問型サービスⅠ/2	月 5 回以上	1	5	5.0
身体介護 1	3 0 分未満	8	68	32.8
身体介護 2	3 0 分以上 1 時間未満	9	51	50.1
身体介護 3	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	2	2	2.7
身体介護 4	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 1 生活 1	3 0 分以上 1 時間未満	4	49	49.0
身体 1 生活 2	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	1	8	12.0
身体 1 生活 3	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	1	1	1.8
身体 2 生活 1	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 2 生活 2	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 2 生活 3	2 時間以上 2 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 3 生活 1	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 3 生活 2	2 時間以上 2 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 3 生活 3	2 時間 3 0 分以上 3 時間未満	0	0	0.0
身体 1 夜	3 0 分未満	1	13	6.2
身体 2 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
身体 1 生活 1 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
生活援助 2	3 0 分以上 1 時間未満	8	26	16.0
生活援助 3	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	40	251	253.2
生活援助 2 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
生活援助 3 夜	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
合 計		128	739	684.7

(令和 2 年 3 月分)

## 小川ホーム 介護計画センター 事業報告

### 運営概況

各事業目標に対して：

(1) 居宅介護支援(I)の基準を維持する。

取扱件数40件未満を満たすことができた。

(2) 特定事業所加算(I)または(II)の基準を維持する。

算定要件の⑤「要介護3～5の割合が40%以上」について、月26～28%の割合となり(I)の算定要件に満たなかった。(II)を保つことができた。

(3) 認知症高齢者と中重度の要介護高齢者が安心して生活できるよう、地域でのケアマネジャーの役割を担う。

おがワンフェスティバルの協力。

地域包括支援センターから依頼のあった困難ケース(認知症で独居、支援者が不在など)に迅速に対応した。

- ・主介護者の急な入院に対し、生活を支えるため、認定申請と同時に介護サービスの同日導入。

- ・担当する利用者の配偶者が小平市以外の保険者で、地域包括支援センターと協力して支援方法を検討。など

(4) 現状のニーズを把握し、地域ニーズに即した介護サービスの展開をして行く。

日々のアセスメントやモニタリングにより、担当利用者のニーズ把握と介護サービスの展開を行った。地域特有の地域ニーズの分析までは至らなかった。

(5) 地域においてより良いサービスを提供する為に、必要な加算を算定できるように事業展開する。

初回加算 58件

特定事業所加算II 2, 853件

入院時情報連携加算I 32件 ・ II 15件

退院退所加算Iイ 15件

退院退所加算IIイ 2件

退院退所加算IIロ 2件

退院退所加算Iロ、小規模多機能型居宅介護事業所連携加算、看護小規模多機能型居宅介護支援事業所連携加算、緊急時等居宅カンファレンス加算、ターミナルケアマネジメント加算の該当事例は無かった。

(6) 介護支援専門員実務研修における「ケアマネジメントの基礎技術に関する実習」等に協力、または協力体制を確保していく。

実習受入実績：介護支援専門員受験者の減少により、本年度は東京都福祉保健財団からの依頼が無く、実習実績は無かった。

実習受入事業所として東京都福祉保健財団に連絡をし、協力体制を確保している。

(7)主任介護支援専門員の役割を認識し、地域包括支援センターの主任介護支援専門員と、連携、協力、協働しながら、地域のケアマネジャーに対してスーパービジョン(アセスメント力、質問力、気づきの提供等)を行い支援していく。また、困難ケースにおいても適切に対応できる体制を整えて行く。

小平市ケアプラン点検事業・ケアプラン指導研修事業に、主任介護支援専門員2名が指導的役割として参加。地域包括支援センターの主任介護支援専門員と協働で、市内の介護支援専門員のケアマネジメントの支援を行った。前期1名、後期2名。

困難ケースへの対応については、毎週行うミーティングにおいて月1回集中的に事例検討を行い、対応策を研鑽した。

(8)平時からの医療機関との連携促進及び入退院時において更なる医療機関との連携促進により、医療と介護の連携を図る。

入院時には、北多摩北部保健医療圏共通様式の地域連携情報シートを使用し、入院機関に利用者の情報の提供(承諾を得たもの)とケアマネジャーの連絡先を伝え、連携を図った。入院時情報連携加算は計47件。

退院時においては、退院調整看護師や医療相談員と連絡を取り合い、退院カンファレンスに積極的に参加し、退院後の利用者の生活について連携を行った。退院退所加算は計19件。

在宅医療介護連携推進協議会主催の在宅ケアコラボ研修に参加し、在宅高齢者支援における知識と連携を深めた。

#### その他

外部研修として、小平市内のケアマネジャーの横のつながりや専門職としての技能を研鑽し合うことを目的とする『小平ケアマネ連絡会』の研修に参加した。

事業所内研修としては、毎週1回行っている計画センターの全体ミーティングで、ケアマネジメント技術の向上に努めた。

小平市より依頼された要介護認定訪問調査を行った。小平市116件、新宿区2件、品川区1件・江東区1件。

計120件

#### 1. ケアプラン作成件数 (当月の月間計画作成数より算定、支援の受託は0件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	230	226	226	235	232	230	231
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※30年度
件数	232	228	228	220	216	2,734	2,861

## 2. 要介護度別分類

3. 年齢	性	支援 1	支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
～59	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	0	0	1
	計	0	0	0	0	1	0	0	1
60～64	男	0	0	0	0	0	1	0	1
	女	0	0	1	0	0	0	0	1
	計	0	0	1	0	0	1	0	2
65～69	男	0	0	3	0	1	0	0	4
	女	0	0	2	1	0	1	1	5
	計	0	0	5	1	1	1	1	9
70～74	男	0	0	2	1	0	0	0	3
	女	0	0	3	3	2	3	0	11
	計	0	0	5	4	2	3	0	14
75～79	男	0	0	3	5	2	1	0	11
	女	0	0	7	3	1	3	2	16
	計	0	0	10	8	3	4	2	27
80～84	男	0	0	10	5	2	1	0	18
	女	0	0	15	8	3	1	1	28
	計	0	0	25	13	5	2	1	46
85～89	男	0	0	10	2	3	1	0	16
	女	0	0	17	7	5	6	2	37
	計	0	0	27	9	8	7	2	53
90～	男	0	0	5	9	2	2	0	18
	女	0	0	13	22	6	3	2	46
	計	0	0	18	31	8	5	2	64
合計	男	0	0	33	22	10	6	0	71
	女	0	0	58	44	18	17	8	145
	計	0	0	91	66	28	23	8	216

(令和2年3月分)

## 3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	71	144	215
東村山市	0	1	1
計	71	145	216

(令和2年3月分)

## 小平市 地域包括支援センター 小川ホーム 事業報告

### 運営概況

小平市の事業方針・計画に基づいて重点項目（事業目標）を中心に業務を遂行してきた。地域包括支援センター（以下「センター」）には、地域包括ケアシステムの構築の推進を基に多種多様な総合的な相談ばかりでなく、地域作りに取り組んできた。センターには、地域を作る使命がある為、特に地域作りについては、高齢者自身の介護予防の観点や地域との交流を図りながら地域に根差した活動を行った。内容は以下の通り。

※年度の後半 2 月頃より、新型コロナウイルス感染予防対策の為、一部の行事（介護予防講座、オレンジカフェ、家族介護教室等の開催が出来なくなった。このままの状況が続いていくと地域の高齢者がフレイル状態となり、新型コロナウイルスで拡大する水面下の課題（外出自粛による閉じこもりからくる運動機能低下や食事の偏りによる栄養状態の悪化等のリスク）についての問題に発展する恐れもあるので、感染によらない二次的な健康被害にどう対処していくのか、出来る事を考え行っていく必要がある。

○生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターの活動について

地域包括ケアシステムの構築が叫ばれている近年、地域作りの仕組みの構築が必要であり、小平市でも着々とその歩みを進めている。

厚生労働省 生活支援体制整備事業で創設された第 2 層協議会（以下「第 2 層」）の生活支援コーディネーターが中心になって、小平中央西圏域内の地域作りを進めてきた。様々な学習会に参加し企画しながら、小川西町地区の第 2 層の協議会「誰もが安心して暮らせる小川西町を考える会・みらい」を実施した。地域の民生委員、見守りボランティア等、住民の代表者に参加メンバーとなって頂き活動を行った。今後もこれらの活躍により、一層小川西町の地域作りを前進させていきたい。

【二層協議会の開催】誰もが安心して暮らせる小川西町を考える会・みらい

日程	主な内容
5 月 17 日	秋の交流会イベントについて・情報交換・グループワーク
8 月 22 日	秋の交流会イベントについて・情報交換・グループワーク
11 月 21 日	おがワンフェスティバルについて・情報交換・グループワーク
2 月 20 日	各グループでの話し合い・情報交換・集いの場で出来る事・マップ作り・イベントのお知らせ

➤ 11 月 24 日 秋のふれあい交流イベントおがワンフェスティバル開催

二層協議会委員、見守りボランティア、小川ホーム地域連携委員会、地域の団体と協働し、準備し開催した。

今後、この西町地区での先行事例を元に、次の地域、小川東町地区でも(株)ブリヂストンに協力を依頼し、立ち上げ準備をしている。ブリヂストンは地域作り貢献し、協力したいとの意向を示しており、このつながりを活かしながら、小川東町ならではの地域作りを地区民生委員にも協力をしてもらいつつ進めて行き、小川西町同様に生活支援体制整備事業の学習

会から開始し協議会の開催へとつなげていく。

➤ 地域の会議、行事への参加

＜全域＞自治会懇談会、NPOフェスタ、認知症フェスタ、小平西ネット講演会、介護予防リーダー養成研修、認知症支援リーダー養成研修

＜小川西町＞小平西ネット第一ブロック懇談会、たいよう福祉センター地域懇談会、十三小地域防災ネットワーク、小川西町公民館講座企画委員会、ふじみ団地まつり、たいよう福祉センターまつり、小川駅前開発、小川西町公民館まつり

＜小川東＞ブリヂストン電動自転車試乗会

＜津田町＞津田公民館講座企画、津田公民館講座「明るい終活」

＜上水本町＞上鈴木自治会夏祭り

➤ 地域の居場所立ち上げ・運営支援

＜小川西町＞住民主体の体操の集い・みんなで健康体操 月1回

なかま中宿 月1回

＜小川東＞いきらくサロン小川東 月1回

＜津田町＞にこにこカフェつだ

➤ サービスB対象者把握・申請支援

＜小川西町＞ふじみふれあいサロン

＜学園西町＞交友サロンこげら

＜上水本町＞上水藤ノ木サロン＞

➤ 地域の居場所訪問：実態把握、センターの紹介、いきらく体操実施等

＜小川西町＞ひろばの会、さくら会、憩いの場、シルバーピア小川西5丁目茶話会、

＜小川東町＞なごみ会、カフェひだまり、悠々クラブ

＜学園西町＞交友サロンこげら、学友サロン

＜上水本町＞上水藤ノ木サロン

○介護予防見守りボランティアの積極的な活用とライフサポーター養成研修の関わり及び、

地域におけるインフォーマルサービスの開発と積極的な活用について

見守りボランティア登録者は3月現在98名（男44名女54名）がいる。

前年度からすると、微増傾向であった。

➤ 通報・相談件数 11件

【登録者内訳】

小川西町：31名（男16名女15名）小川東町：21名（男6名女15名）津田町：9名（男5名女4名）学園西町：22名（男12名女10名）上水本町：15名（男5名女10名）

【見守りボランティアの交流会のテーマ】

- ① 「自分の町をもっとよく知って情報発信をする」
- ② 「認知症の方を地域で見守っていく」ために、
- ③ 秋のふれあい交流イベント、おがワンフェスティバル開催をテーマとして交流会の企画運営をしてきた。

日程	主な内容	地区
4月19日	認知症声かけ訓練の振り返り・情報交換	小川
5月18日	DVD視聴、認知症私たちに出来る事、情報交換	津田
6月21日	立川市認知症声かけ訓練の説明、情報交換	小川
7月19日	立川市認知症声かけ訓練の説明、情報交換	津田
8月16日	おがワンフェスティバル等情報提供、次回まちあるきについて	小川
9月20日	おがワンフェスティバル等情報提供、次回まちあるきについて	津田
10月18日	まちあるき	小川
11月16日	合同講演会	合同
12月20日	まちの安全見守り	小川
1月17日	まちの安全見守り	津田
2月21日	防災シュミレーション・クロスロードゲーム	小川

- ▶ 9月8日：たいようセンターまつりに有志で参加
- ▶ 11月24日：秋のふれあい交流イベントおがワンフェスティバル参加

見守りボランティアの登録は地域活動の起点になる傾向が高い。秋のふれあい交流イベントでは、運営にボランティアとして参加し地域交流の必要性を皆で、再認識し、来年度の開催にも意欲を示していた。又介護予防リーダーや認知症支援リーダーは第二層協議会への参加になど貴重な人材であり、その役割を担っている。今後は、地域の見守りの役割に加え、自身の介護予防の視点から、活動の場が広がるよう働きかける予定で、ブリヂストンとの協働で地域活動の創出を進めて行く。

#### ○総合相談支援業務及び権利擁護事業について

センターの知名度が広まる中で、本人や家族だけでなく、地域のケアマネジャーからの相談や、医療機関・障害や他の制度にまたがる相談まであり、40～45件/月で推移している。総合相談の主な内容は認知症、ガン末期、精神疾患、多問題家族、ゴミ屋敷問題、権利擁護（虐待・消費者被害）問題等であった。特に虐待の問題は根深く、すぐには解決とはいかない為、何度も市と中央包括とのコア会議を繰り返してきた。意見の相違もありコア会議の在り方や意味において考えさせられた。引き続き検討していく必要がある。

また、昨今話題にもなっている8050問題の相談も加わり、多岐に渡り顕在化している。相談にかなりの時間を割いており、行政や他機関との連携が数多く必要となった。今年度は、「誰もが悩む複合的な課題を抱える家族への対応支援のために～連携体制の在り方について考える～」をテーマとして実施し、各関係機関で行える支援内容や対応の共有、問題解決の為の方法、具体的に何が出来るか意見交換をして、今後の支援体制の構築や連携作りに役立つよう取り組んだ。今後もこの課題は、社会問題として・家族の一つの在り方として頻出の可能性はある。

#### ○包括的・継続的ケアマネジメント業務について

地域のケアマネジャーに対しては、日常的な個別支援や困難事例への指導や助言はもとよ



り、多職種連携及び介護支援専門員のネットワークの支援や研修の企画と運営を行った。

【全体研修：市内の在勤のケアマネジャーを対象とした研修】

日程	テーマ	講師
7月5日	心に寄り添う面接技術	国立精神神経医療研究センター病院・原裕子 P S W
10月25日	地域の薬局と連携しケアマネジメントに生かそう（ケアマネ交流会：西圏域）	村野薬局：鎌谷道生薬剤師
11月29日	精神疾患の正しい理解と関わり方	成仁病院・春日武彦氏
1月21日	リハビリの視点から考える自立支援に資するケアマネジメント	昭和病院・安田耕平 P T
2月18日	障害制度やサービス・支援相談員との交流	市：障害者支援課

【主任ケアマネ対象：市内在勤の主マネを対象・指導的役割を担うために必要な知識、技術を学ぶ研修】

日程	テーマ	講師
9月4日	基礎から学ぶスーパービジョン	聖徳大学・北村先生
10月1日	基礎から学ぶスーパービジョン	聖徳大学・北村先生

同時に、居宅の主任ケアマネジャーと連携・協働しながら、今年度も「リ・アセスメントシート」により、ケアプラン作成についての研修を行った。

介護予防に資する地域ケア会議でのケアプランの検討では、「同じケアプランが長く続いている事例」をテーマに市の職員や包括支援センターの三職種（社会福祉士・保健師・主任介護支援専門員）に加え、管理栄養士、理学療法士の多職種で検討をした。個別の事例から地域に共通する課題や有効な支援策を明らかにする事によって、課題の発生防止や重度化防止につながり、強いては高齢者の QOL の向上、ケアマネジメントの質の向上につながる様に検討を行い、ケアプランについて見直しや考え方の新たな発見につながった。

○介護予防ケアマネジメント業務・第1号介護予防支援事業について

概ね自前ケースが平均468件と委託ケースは平均115件と推移している。委託事業所は前年度より増えてきたが、まだまだ要支援のケースを受け持ってくれる事業所は少数であり、委託する事に苦勞を要した。

○家族介護教室については、地域のニーズや課題を勘案しつつ開催した。

日程	テーマ	講師
5月23日	認知症サポーター養成講座（割り当て分）	包括職員
9月26日	おむつのあて方・選び方	リブドゥコーポレーション（リフレ）末藤真希子氏

○認知症サポーター養成講座においても定期開催しつつ、地域の要請に応じて行った

日程	開催したところ	講師
12月19日	みずほ銀行（八坂支店）	包括職員

○地域への出張講座

地域包括支援センターとつながる事への大切さについて説明する。

今までは、介護になって大変となり、相談に来ていたが、これからは、元気なうちから地域とのつながりを持って、地域で自分の出来る事・役割を持ってもらう事が重要。普段から地域包括支援センターとつながってもらう事が大切。強いては自分の介護予防にもなり、生きがい活動、元気を保つ事につながる事を説明した。

日程	テーマ	講師
5月10日	地域包括支援センターとは、介護保険制度について（高齢者クラブ：さくら会）	包括職員
10月5日	どこに言える？助けて！と～自分や周囲の人の健康や生活が変わった時～	包括職員

○行事関係で地域に発信しているものについて

認知症カフェ（おれんじカフェ小川）は毎月開催している。平均15名参加ここでは、認知症の方やその家族の交流の場としている。特に認知症の方と一緒に作るおやつ作りは好評で、それぞれ各自のできる場所で共に行い最後に食べて頂くことで、利用者の笑顔が見られている。ただし送迎がない為、オレンジカフェに来てもらいたいが来られない認知症の方には、認知症リーダーにも協力してもらい、利用者の送迎もお願いした。ただ、リーダーの活躍する場所が限られていて、持て余してしまう状況にもなっており、新たな場所の立ち上げや養成する段階での目的や方針にも課題が残る。又家族の参加も、少ないので今後の課題でもある。

サロンは毎週開催（認知症カフェ開催日以外）している。体操やアロマ、脳トレ、カラオケ等のメニューを中心に行った。平均参加者25名と今年度も前年度以上に地域住民の憩いの場として定着してきた。このように、認知症カフェ（おれんじカフェ）やサロンにおいて、認知症支援リーダーや介護予防リーダー、ボランティアの方の協力も必要不可欠になりつつある。圏域内の地域作りをより一層進めてきた一年となった。

介護予防講座は、㈱ブリヂストンのインストラクターに月1回依頼し、中宿地域センター平均34名と学園西町地域センター平均18名で介護予防の促進、地域の仲間作りの目的として開催した。地域差又時間帯の問題なのか、中宿地域センターの方の参加者が多い。ここではインストラクターによる指導だけでなく、介護予防リーダーには、小平市が作成した「いきらく体操」を実践して頂いており、リーダーが活躍する場としても会の開催ができるようになった。又生活支援コーディネーターが立ち上げ支援し、住民が主体とした新たな居場所立ち上げにも成功している。

○認知症相談会（物忘れ相談会）・もの忘れチェック会について

看護師が中心となり「認知症に関するミニ講座やもの忘れ度チェック及び結果の配布説明」を、国立精神神経医療研究センター病院の医師や基幹型包括にも協力して頂きながら実施し、早期に専門医に相談できる場として開催できた。

今年度チェック会では、個別に書類を渡し説明の時間もとったので、時間はかかったが本人や家族には、今後の事が良く理解してもらえる様にした。またチェック会後に医療機関に受診したかどうかの追跡調査も今後していく。

日程	テーマ
7月9日	物忘れ相談会：3名
1月28日	もの忘れチェック会：16名

今まで同様に、医療と介護との多職種連携事業（研修）も含め、行政や地域との会議運営に多くの時間を掛けて連携を深めてきた。小平市版の地域包括ケアシステムが成熟してきたと言える。

その他、外部諸団体の会議（全国社会福祉協議会の各種委員会や東京都高齢者福祉部会の各種委員会）にも参加し、有益な情報収集を行った。

次年度においても個々の研修ニーズや課題を把握し、センター職員各々のスキルアップを更に進めて行きながら、小川ホームが地域の中核機関として近隣住民から信頼され、必要不可欠な存在として機能し続けていきたい。

1、 ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	464	464	469	470	467	472	473
内委託	107	107	112	115	116	119	119
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※平成30年度
件数	473	479	447	482	460	5,620	5,633
内委託	124	122	118	119	111	1,389	1025

2、 要介護度分類

	～59歳		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
事業	/	/	/	/	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3	3
支援1	1	1	1	1	1	2	3	11	7	18	11	40	14	26	10	28	48	127	175
支援2	1	2	1	1	5	6	15	11	12	23	12	43	36	63	11	42	93	191	284
合計	2	3	2	2	6	8	18	22	19	42	23	84	50	89	21	71	141	321	462

令和2年3月31日現在

相談実績

相談件数 (件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
	当月相談者数	266	282	395	333	372	268	282	284	233	260	227	289	3491	
	当月内訳	新規相談者	46	40	36	40	31	37	35	43	31	35	36	33	443
		継続相談者	220	242	359	293	341	231	247	241	202	225	191	256	3048
相談内訳	自立支援サービス	給食サービス	3	3	3	0	7	3	2	1	7	8	0	3	40
		住宅改修	5	4	1	6	4	0	2	0	0	1	1	2	26
		福祉用具	7	3	1	0	0	0	2	0	0	0	0	2	15
		緊急通報・火災安全システム	0	0	2	2	2	0	1	0	1	1	0	0	9
		おむつ支給等事業	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	4
		高齢者見守り事業	11	19	11	19	17	12	17	9	17	7	9	17	165
		その他自立支援サービス等	5	1	6	0	4	2	0	2	1	2	0	1	24
	介護保険	施設サービス	13	16	23	28	22	24	19	19	13	18	13	23	231
		在宅サービス	93	133	156	152	150	121	149	143	91	127	86	129	1530
		地域密着サービス	2	4	3	2	4	3	0	3	2	1	1	1	26
		ケアマネ・ケアプランの相談	39	61	76	53	49	42	51	54	31	41	31	52	580
		申請等の相談	34	58	63	59	58	50	57	35	41	51	35	60	601
	介護予防・生活支援	訪問型サービス	16	8	3	2	7	3	0	2	0	2	0	1	44
		通所型サービス	18	12	7	15	8	3	10	10	2	2	1	6	94
	一般介護予防事業	ADL・IADLに関する相談	20	6	9	6	5	2	9	8	1	1	2	1	70
		社会参加に関する相談	15	15	11	8	5	5	9	9	4	6	2	6	95

認知症に関する相談	症状・生活に関する相談	45	37	61	60	46	34	40	45	25	27	16	26	462
	受診・治療・服薬に関する相談	23	16	23	22	31	9	23	19	13	15	6	17	217
	徘徊に関する相談	2	0	2	4	1	4	2	1	2	0	0	0	18
	上記以外の相談	2	0	2	4	1	4	2	1	2	0	0	0	18
権利擁護	地域福祉権利擁護	3	3	4	3	7	4	4	4	1	7	4	11	55
	成年後見	3	7	13	7	6	8	5	7	1	6	4	2	69
	高齢者虐待	5	0	10	14	9	13	16	11	16	20	8	14	136
	消費者相談	8	0	11	6	6	3	3	7	5	8	4	4	65
その他	苦情	3	2	2	7	1	1	1	0	0	1	0	1	19
	安否確認・緊急対応	11	13	14	20	25	9	9	15	13	6	8	20	163
	住環境に関する相談	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	生活困窮者に関する相談	23	2	15	17	11	5	1	5	3	8	0	3	93
	緊急医療情報キットに関する相談	8	2	3	3	0	1	3	0	2	0	0	1	23
	医療関係	44	4	59	49	68	53	42	32	41	47	36	47	522
	他制度の相談	0	9	0	5	0	3	0	0	1	4	3	3	28
	介護者自身(介護疲れ、介護離職)に関する相談 上記以外の相談	8 8	3 2	9 9	8 8	5 5	3 3	9 9	2 2	4 4	3 3	3 3	3 3	60 59

相談件数 (件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
予防給付	要支援1	予防ケアプラン作成	59	58	65	64	65	70	65	67	68	67	65	65	778
		予防ケアプラン作成委託	13	14	15	11	10	12	16	17	14	16	13	15	166
		ケアプラン作成委託事業者数 (3月31日現在の数)	13	12	13	11	10	11	13	13	13	14	11	11	145
	要支援2	予防ケアプラン作成	114	114	114	118	112	109	114	116	116	117	117	125	1386
		予防ケアプラン作成委託	46	54	50	52	55	50	54	56	54	56	53	53	633
		ケアプラン作成委託事業者数 (3月現在)	34	42	44	41	43	41	43	42	44	44	45	43	506
		セルフケアプラン作成件数	0	2	0	0	2	1	1	1	0	1	2	1	11
介護予防日常生活支援事業	事業対象者	ケアプランA	4	5	4	5	6	6	6	4	8	6	5	6	65
		ケアプランB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプランC	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業作成委託事業者 (3月現在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援1	ケアプランA	90	90	90	93	90	80	93	89	92	90	93	86	1076
		ケアプランB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	13	25	19	26	20	24	21	24	29	25	26	23	275
		総合事業作成委託事業者 (3月現在)	13	14	15	17	20	22	19	23	25	27	26	22	243
	要支援2	ケアプランA	88	89	84	86	86	83	81	77	79	82	77	73	985
		ケアプランB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	26	26	29	37	30	31	21	26	23	21	24	24	318
		総合事業作成委託事業者 (3月現在)	19	23	26	28	25	27	19	28	23	22	22	23	285

ケアマネ業務	事業対象者	6	3	3	9	9	0	1	5	1	1	0	2	40
	要支援 1	262	277	200	208	225	191	191	194	185	213	187	250	2583
	要支援 2	365	382	336	344	342	329	335	311	290	308	323	325	3990
	申請中・退院調整等	10	13	39	10	15	27	17	6	6	11	11	18	183
	サービス担当者会議・ケース会議	40	41	32	37	37	37	51	35	66	38	24	34	472
介護保険申請件数		49	56	52	53	53	51	59	51	37	56	71	53	641
事業対象者 基本チェックリスト実施		0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
実態把握に関する対応		0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4	23	29
ネジメン ト事業 包括的・ 継続的 ケアマ	ケアプラン作成指導・ 個別指導・相談	7	2	3	7	7	8	6	7	6	7	4	4	68
	困難事例への指導助言	23	5	15	13	4	5	5	7	8	9	8	12	114
	サービス担当者会議・ ケース会議	1	0	1	5	2	1	4	0	2	2	1	0	19
地域 ケア 会議	地域ケア会議 ＜個別ケース検討＞	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	5
	地域ケア推進会議[圏域内テ ーマ設定会議]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地域ケア推進会議[第2層生 活支援体制整備事業協議会]	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4

この事業報告書は原本と相違ないことを証明します。

令和2年6月19日

東京都小平市小川西町2-35-2

社会福祉法人緑友会

理事長 菅野 徹夫